

1 田岡南地区B調査区西区画全景



2 田岡南地区B調査区東区画全景



1 三谷幹線水路土層断面



2 SD03 完掘全景 (西より)



1 SD03 護岸列石検出状況



2 SX03 完掘状況



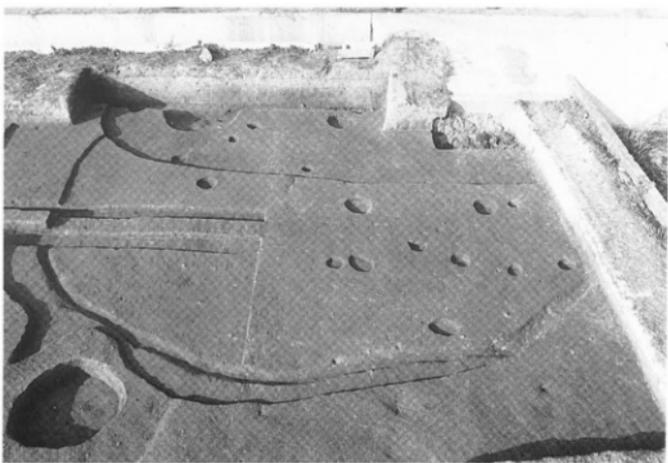
1 SE01 完掘状況



2 SE01 井側検出状況



1 SX01 完掘状況及び土層



2 SH01-03 完掘状況



1 SH02 完掘状况



2 SX04 完掘状况



1 SK02(西) 遺物出土状況



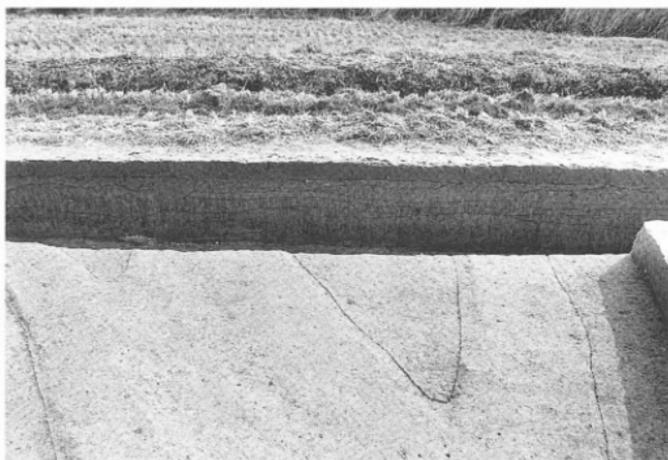
2 SK04(東) 遺物出土状況



1 田岡南地区D調査区完掘全景



2 田岡南地区D調査区土層図(SD01)



1 田岡南地区D調査区土層図(畦畔断面)



2 田岡南地区D調査区土層図(SD03)



1 田図南地区D調査区確認トレンチ全景



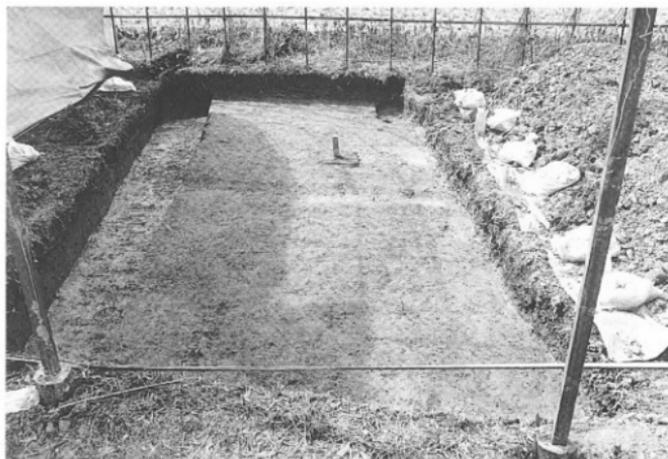
2 田図南地区F調査区第1トレンチ遺構検出全景



1 田岡南地区F調査区第2トレンチ全景



2 田岡南地区F調査区第3トレンチ全景及び上層



1 田岡南地区F調査区第4トレンチ全景



2 第1トレンチ基本土層（東半）



1 第1トレンチ基本土層（西半）



2 第1トレンチSD01 遺物出土状況全景



1 第1トレンチ遺物出土状況（部分拡大1）



2 第1トレンチ遺物出土状況（部分拡大2）



1 第2トレンチ SD02 遺物出土状況 (部分拡大2) 全景



2 SD02・SD03 検出状況



1 SD03 石組検出状況



2 SD03 完掘状況



1 SD03 五輪塔空輪石出土狀況



2 盃状穴石出土狀況



1 南海道推定地第1トレンチ全景



2 南海道推定地第1トレンチ上層



1 南海道推定地第2トレンチ全景



2 南海道推定地第2トレンチ土層 (北半)



1 南海道推定地第2トレンチ土層（南半）



2 溝状遺構完掘全景



1 南海道推定地第3調査区東壁土層



2 南海道推定地第3調査区東壁土層拡大(1)



1 南海道推定地第3調査区東壁上層拡大(2)



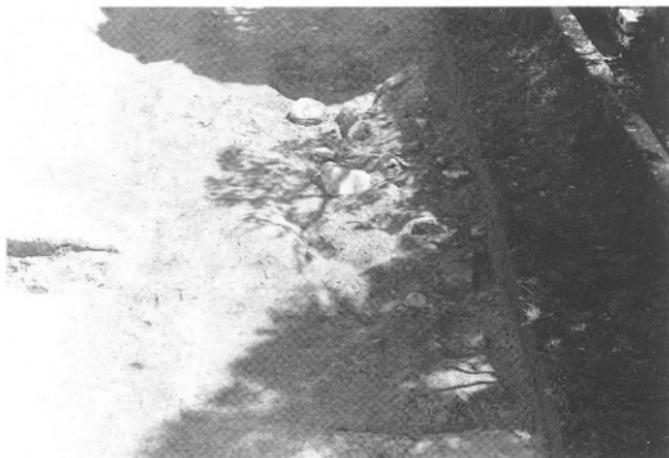
2 南海道推定地第3調査区東壁土層拡大(3)



1 北海道推定地第3調査区全景



2 北海道推定地第3調査区完掘全景



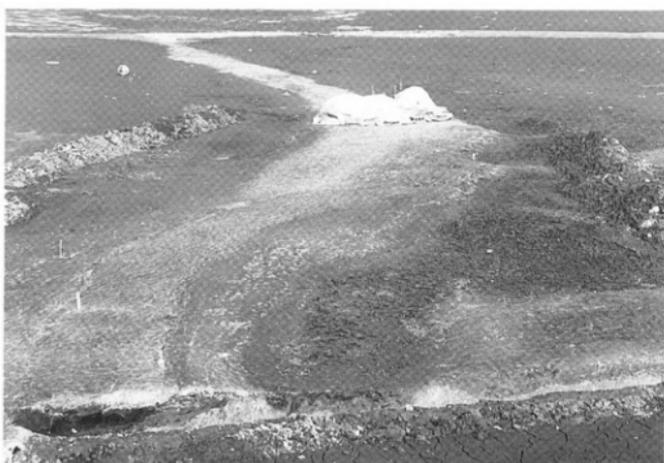
1 南海道推定地第3調査区西側集石の状況



2 南海道推定地第3調査区東側集石の状況



1 田園北地区（大池遺跡）基本土層断面



2 SD02 検出状況



1 SD02 完掘状况



2 SD02 遺物出土状况(1)



1 SD02 遺物出土状況(2)



2 SD02 須恵器片出土状況



1 水田畦畔検出状況



2 水田畦畔完掘状況



1 水田畦畔脇水路の足跡検出状況



2 SD01 完掘状況



1 SR01 完掘状况



2 SR01 土层断面

第2部 考察編

第1章 考古学から見た高松平野

第1節 高松平野の発掘調査で検出された溝状遺構と推定条里地割との関係

丹羽佑一・山本英之

本書第1部第2章第2節に「弘福寺領讃岐国山田郡田園比定地周辺遺跡」として掲げた中から、B：条里関係遺構を含むもの、として分類した遺跡の個々の遺構について遺構地名表にまとめるとともに、高松平野条里遺構分布図として10000分の1の地図上に表した。

条里関連遺構として抽出したのは、主に調査報告書、概報等に条里坪界線として報告されているもので、報告書未刊の遺跡については概ね現地表面で読みとれる条里坪界線（現行の道路、水路、畦畔、地筆界等）に重複または平行する古代以降の溝状遺構（一部水田畦畔、道路遺構を含む）である。

条里遺構の判断は、直線を呈する形状と現行坪界線との平行関係と距離を基準とした。すなわち、現行坪界線と重複または一定距離（概ね11m）の範囲内で平行関係を持つもの、現行坪界線から予想される条里坪中線に一致または一定距離（同上）で平行するものの2点であるが、これに該当しない遺構についても状況により適宜搭載している。例えば、空港跡地遺跡、香西南西打遺跡、鬼無藤井遺跡など発掘面積が大きく遺構方位や位置関係がより詳細に確認できるため、距離に関係なく現行坪界線との平行関係と直線形状のみの緩い条件設定によって関連遺構地名表に搭載している。

特に、空港跡地遺跡については現地割が条里に沿っていないことから、周辺部の地表面条里を延長した坪界想定線を条里遺構抽出の基準としたが、空港跡地南部の西三谷付近では陸軍飛行場接取に伴う異方向地割と丘陵裾部が近接して良好な表層条里地割を設定し得ない。この結果、条方向については現市道多肥林線に一致する山田郡7条10里1・2坪界を基準として概ね110mの間隔で東西に割り振ることで坪界線を復原した。したがって坪界想定線が現況の地割によらない不確定なものであることを考慮して、方向が一致していれば坪界想定線から11m以上離れた遺構であっても条里関連遺構として抽出したというのがもう一つの理由である。この結果、空港跡地遺跡をはじめ数箇所では条里坪界線というよりもむしろ1町方格内の細区画の溝状遺構も拾っている。

抽出条里遺構の延長距離、幅深さの数値に関しては、できるだけ調査報告書等に公式に記載された数値を用いた。本表作成のために新規に計測した数値については（ ）書きにて表記した。なお、「現況坪界線との隔たり」の数値はすべて本表作成にあたって計測したものである。遺構番号についてもできるだけ報告済み文献の記述を尊重した。以下、関連遺構地名表については表末凡例を参照いただきたい。

遺構分布地図については、香川県国土基本図5000分の1を基図とし、最終的に10000分の1に縮小編集して平野部全域をカバーした。空港跡地遺跡については遺構密度が濃密であったことから部分拡大図を作成した。部分拡大図は『空港跡地遺跡平成5年度発掘調査概報』付図（1500分の1）を原図として1000分の1基図を調製し、2500分の1に仕上げた。香西南西打遺跡、鬼無藤井遺跡については、関連遺構地名表には網羅したものの、整理作業と本書紙幅の事情で遺構分布図の作成にまていられなかった。

分布図中の遺構の表記は、古代（8～12世紀）、中世（13～16世紀）、近世・近現代（17世紀以降）の3時期に区分したうえで線種・色分け・分版によって識別した。これも詳細に関しては図中凡例を参照いただきたい。

第25表 高松平野の夾里遺構一覧表

1. 空堀地遺跡

遺構番号	調査区	道筋方向	出土位置(推定番号)	出土位置	現況	埋没深さ	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD02	I-1,3区	(10°N)	山8条10里2坪中線	山8条10里2坪中線	現況球界線との隔たり 中線想定線から11m南	80	80	8米~9期	中央部で5mの分岐	(3)
SD03	I-3,4,6区	(10°E)	山8条10里2,11坪中線	山8条10里2,11坪中線	中線想定線	270	50	8米~9期	須恵器杯身、杯蓋 弥生後周土器片(多数)、須恵器 弥生後周土器片(多数)、須恵器 弥生後周土器片(多数)、須恵器	(3)
SD04	II-6区	(10°E)	山8条10里11,12坪界	山8条10里11,12坪界	球界道路から8m東	190	36	9米~10期	土師器杯、杯、土師、須恵器杯、 須恵器杯、土師、須恵器杯、 須恵器杯、土師、須恵器杯、	(1)
SD05	III-4区	(12°E)	山7条10里17坪中線	山7条10里17坪中線	中線想定線から西9m	85	21	9米~10期	須恵器杯、土師、須恵器杯、 須恵器杯、土師、須恵器杯、	(1)
SD06	II-4区	(12°E)	山7条10里17坪中線	山7条10里17坪中線	中線想定線から西9m	50	8	9米~10期	須恵器杯、土師、須恵器杯、 須恵器杯、土師、須恵器杯、	(1)
SD06	II-2区	(10°E)	山7条10里16,21坪界	山7条10里16,21坪界	球界想定線から南5m	100	10	(8米~9期)	須恵器杯、土師、須恵器杯、 須恵器杯、土師、須恵器杯、	(3)
SD08	III-10,35	(10°E)	山7条10里12,13坪中線	山7条10里12,13坪中線	中線想定線から東5m	(500)	-	11後	SD46と重複、SD46 に先行	(3)
SD09	I-1,2,5,7区	(10°E)	山8条10里2,3坪界	山8条10里2,3坪界	球界想定線から東6~ 12.5m	(100)	-	17~19	下層より13世紀遺物	(4)
SD10東	III-8区	(10°E)	山7条10里14坪中線	山7条10里14坪中線	中線想定線から東17m	(400)	-	13期	船跡方格溝(船界)	(3)
SD10西	III-8,1区	(10°E)	山7条10里15坪中線	山7条10里15坪中線	中線想定線から東7m	(400)	-	13期	船跡方格溝(西界)	(3)
SD10南	III-1,2区	(10°N)	山7条10里14,15坪中線	山7条10里14,15坪中線	中線想定線から北12m	(250)	-	13期	船跡方格溝(南界)	(3)
SD11	III-2区	(10°E)	山7条10里22坪中線	山7条10里22坪中線	中線想定線から東8m	380	60	13	SD10に先行	(3)
SD12東	III-2区	(10°E)	山7条10里22坪中線	山7条10里22坪中線	中線想定線から東8m	380	60	13	SD10より後出	(3)
SD12南	III-2区	(12°N)	山7条10里15,22坪界	山7条10里15,22坪界	中線想定線から北2.5m	380	60	12~16	SD14に先行	(3)
SD13	III-1,2,37区	(13°N)	山7条10里14,23坪界	山7条10里14,23坪界	中線想定線から北9m	60	8	14	SD13より後出	(4)
SD14	III-7,37区	(13°N)	山7条10里14,23坪界	山7条10里14,23坪界	球界想定線から北9m	66	24	13期	瓦器片	(4)
SD15	III-7区	(10°N)	山7条10里14,23坪界	山7条10里14,23坪界	球界想定線から南10m	400	40	13(一部14後)~15期	SD15と重複、 SD15より後出	(3)
SD16	III-7区	(7°E)	山7条10里15,22坪界	山7条10里15,22坪界	球界想定線から南10m	400	110	13(一部14後)~15期	須恵器杯、須恵器杯	(3)
SD17	III-6,7区	(11°E)	山7条10里14,15坪界	山7条10里14,15坪界	球界想定線から東18m	400	40	13(一部14後)~15期	船跡方格溝	(3)
SD18	III-3,4区	(11°N)	山7条10里22,23坪界	山7条10里22,23坪界	中線想定線から北5m	(300)	-	13(一部14後)~15期	船跡方格溝	(3)
SD19	III-10区	(10°E)	山7条10里24坪中線	山7条10里24坪中線	中線想定線から東12m	(180)	-	17~19	SD10より後出	(3)
SD20	I-3,4区	(10°E)	山8条10里2坪中線	山8条10里2坪中線	中線想定線から東7m	(200)	-	17~19	SD10より後出	(3)
SD21	I-2,17,20区	(10°E)	山7条10里16,21坪界	山7条10里16,21坪界	球界想定線から西22m	(300)	-	17~19	SD10より後出	(6)

道幅番号	調査区	経路方向	輸出位置(併番号)	現況境界線との隔たり	検出範囲 (cm)	埋存深度 (cm)	輸出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD22	Ⅱ-1,2区	(N10° E)	山7条10里15.22坪中線	中線想定線から東23m	(200)	-	(138)		17~19	(3)	
SD23	Ⅲ-6~8区	(N10° E)	山7条10里14~15坪界	坪界想定線から東23m	(200)	-	(30)		17~19	(3)	
SD24	Ⅲ-6~8区	(N10° E)	山7条10里14~15坪界	坪界想定線から東15m	(200)	-	(100)		17~19	(3)	
SD25	Ⅲ-4,33,45区	(N10° E)	山7条10里22~23坪界	坪界想定線から東20m	(300)	-	(75)		17~19	(3)	
SD25	Ⅲ-4,33,45区	(N16° E)	山7条10里23.26坪中線	中線想定線から西17m	(300)	-	(25)		17~19	(3)	
SD26-57	Ⅲ-3,6,8区	(S76° E)	山7条10里23坪中線	中線想定線上							
SD901	34,35,47	(N10° E)	山7条10里14.23坪中線	中線想定線から東20m	550	76	(185)		19~20初	(4-J)	S19年埋没
SDx84	Ⅱ-8区	(N60° W)	山8条10里1坪中線	中線想定線上	500	79	125	瓦、磁器片 土師器瓦・土鍋・唐鉢・唐滑陶器、 書器	17~19	(4)	
SDx85	Ⅱ-8~14区	(N60° W)	山8条10里1坪中線	中線想定線から北3m	110	15	18	土師器土鍋・移動カマド	17~19	(4)	
SD45	Ⅲ-35,10区	(N10° E)	山7条10里11.12坪 13.14坪界	坪界想定線から東25m	100	30	155	須恵器杯、平皿 須恵器碗、甕、黒色土器、土師器 土師器杯・杯・釜	7~8期 11後	(4)	SD08と重複、SD08より検出
SD46	Ⅲ-19,20区	(N10° E)	山7条10里12.13坪中線	中線想定線から東5m	(200)	-	(195)			(4)	
SD47	Ⅲ-35,38区	(N10° E)	山7条10里12.13坪中線	中線想定線から東5m	(100)	-	(18)		14~16	(4)	
SD49	Ⅰ-14区	(0 24° N)	山9条5里36坪中線	中線想定線から南4m	40	10	(17)		14~16	(4)	
SD50	Ⅰ-14区	(0 24° N)	山9条5里36坪中線	中線想定線上	70	10	(20)		14~16	(4)	
SD51	Ⅰ-16区	(N8° E)	山9条5里25坪中線	中線想定線から西24m	220	40	(8)		14~16	(4)	
SD52	Ⅰ-16区	(N11° E)	山9条5里25坪中線	中線想定線から東17m	80	30	(8)	備前黒林片	14~16	(4)	
SD53	Ⅰ-16区	(N6° E)	山8条9里29~32坪界 交点	坪界想定線から東29m 坪界想定線から北8m	200	60	(8)	瓦葺土器、土師瓦土器、白磁轆等	13~14	(4)	
SD54	Ⅲ-3,34,47区	(N10° E) 破	山7条10里23~26坪中線	中線想定線から東17m	180	20	(64)	土師器皿・碗・杯、黒色土器、須 恵器碗・こね鉢、白磁片 備前黒林、瓦、土師瓦葺	12後~13 19~20初	(3,4,5)	
SD58-60	19,20,35区	(N11° E)	山7条10里13.24坪中線	中線想定線から東12m	260	70	(195)			(4)	S19年埋没
SD59	Ⅱ-15区	(S80° E)	山7条10里14.15坪中線	中線想定線から北10m	140	70	(140)	備前黒林片 土師器杯・足差・網、須恵器・こね 鉢等	19	(4)	S19年埋没
SD66	Ⅱ-18,19区	(N12° E)	山7条10里9~16坪中線	中線想定線から西8m	60	30	(67)		12	(5)	

測線番号	調査区	流路方向	抽出位置(円番号)	現況境界線との隔たり	抽出量 (cm)	残存深度 (cm)	抽出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SDe83	II-5区		山7条10里7坪	境界想定線から西5m	410	74	28	土師器土器・土釜・播鉢、唐津陶器皿、甕、備前焼漆鉢	15中～16中	(I)	
SDe85	II-8区	(N7° W)	山7条10里12坪中線	境界想定線から西5m	110	15	18	土師器土鍋、移重		(I)	
SDe86	II-9区	(N7° W)	山7条10里6・7坪界	境界想定線から北20m	100	20	4	土師器 陶器、石臼	15中～16中	(I)	
SDe87	II-9区	(N15° E)	山8条10里8坪中線	中線想定線から南30m	350	54	15	土師器土釜・漆鉢	15中～16中	(I)	
SDe88	II-9、15区	(N7° W)	山7条10里6・7坪界	境界想定線から北15m	140	7	21	土師器土鍋・土釜	15中～16中	(I)	
SDe96	II-14区	(W)	山7条10里6・7坪界	境界想定線から南13m	100	26	95	土師器土鍋、備前焼漆・播鉢、瓦、ふいご羽口	15中～16中	(I)	
SDe101	II-10区	(N4° E)	山8条9里8・9坪界	境界想定線から南19m	190	20	7	灰付焼、白磁焼、備前焼漆鉢、甕	17～19	(I)	
SDe103	II-9区	(N7° W)	山7条9里33坪中線	中線想定線から北7m	145	17	23	土師器漆鉢、陶器貯蔵容器	17～19	(I)	
SDe108	II-14区	(N15° E)	山8条10里1坪中線	中線想定線から西15m	165	26	43	土師器土鍋・漆・播鉢、備前焼漆鉢、灰行、青磁甕	17～19	(I)	
SDe09	II-7区	(N10.8° E)	山7条10里28・29坪界	境界想定線から西11m	130	40	40	厚附系陶胎灰付	18	(II)	
SDe10	II-7区	(N10° E)	山7条10里28・29坪界	境界想定線から西9m	430	90	30	漆鉢器陶、肥前系陶器広重椀	19	(II)	
SDe15	II-7区	(N1° W)	山7条10里21坪中線	中線想定線から南2m	28	4	11		17～	(II)	
SDe16	II-7区	(N2.9° E)	山7条10里21坪中線	中線想定線から南5m	44	18	3.5		17～	(II)	
SDe36	II-13区	(N11° E)	山7条10里27・28坪界	境界想定線から西30m	250	105			17～	(II)	
SDe144	II-41、43区	(N3.5° E)	山7条10里26・27坪界	境界想定線から西30m	350	70	32	瀬戸美濃系灰陶器、信楽京焼風陶器陶	19～20	(II)	
SDe26	II-12区	(N0° W)	山7条10里30坪中線	中線想定線	60	10	1.6	土師器羽釜	12	(III)	
SDe26	II-12区	(N79° W)	山7条10里30坪中線	中線想定線から南10m	60	10	23.4		9～14前	(III)	
SDe27	II-12区	(N75° W)	山7条10里30坪中線	中線想定線から南5m	80	20	13		9～14前	(III)	
SDe29	II-51区	(N10° E)	山6条10里19坪	境界想定線から西11m	60	10	9	土師器羽釜・小皿	9～14前	(III)	
SDe30	II-51区	(N15° E)	山6条10里19坪	境界想定線から西8m	80	5	4		9～14前	(III)	
SDe31	II-52区	(N10° E)	山6条10里38坪中線	中線想定線から西10m	20	5	6.6		9～14前	(III)	
SDe32	II-52区	(N85° W)	山6条10里19・30坪界	境界想定線から南5m	40	10	4	土師器陶	9～14前	(III)	
SDe33	II-52区	(N80° W)	山6条10里19・30坪界	境界想定線から南5m	30	5	3.5		9～14前	(III)	
SDe34	II-52区	(N)	山6条10里19坪中線	中線想定線から西8m	30	10	6.5		9～14前	(III)	
SDe37	II-30区	(N12° E)	山6条10里19坪	境界想定線から西20m	80	10	11	土師器杯・小皿、中国製白磁鉢・青磁片、須恵器杯・甕	12後	(III)	
SDe38	II-21、24区	(N15° E)	山6条10里19坪中線	中線想定線	60	15	18	須恵器土鉢	12末～13初	(III)	

遺構番号	調査区	流路方向	検出位置(坪番号)	東西境界線との隔り	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD39	Ⅲ-28,29区	山6条10里19坪 (N12°E)	山6条10里19坪 山7条10里24坪	東西境界線から東16m 中線想定線から西5m	120	15	46	肥前磁器染付皿・灰付鉢・灰付皿 ・灰付段重、瀬戸美濃磁器染付皿 ・灰付子杯、肥前磁器鉢・灰筒皿 ・鉄薬皿、信楽系陶器皿等	9～13前	(Ⅱ)	
SD41	Ⅲ-12, 21,24, 26,52区	(N10°E)	山6条10里19坪中線		450	90	130		20		(Ⅱ)
SD42	Ⅲ-23,26区	(N80°W)	山6条10里19坪中線	中線想定線から南5m	240	90	50	肥前磁器染付皿、肥前系磁器染付皿 ・灰付鉢、肥前磁器鉢、瀬戸美濃磁器皿、信楽系陶器鉢、大谷焼鉢	20		(Ⅱ)
SD43	Ⅲ-25,28区	(N80°W)	山6条10里19坪中線	中線想定線から南5m	170	50	33	肥前磁器染付皿、瀬戸美濃陶器染付皿、明石焼磁鉢、信楽系磁器鉢等	20		(Ⅱ)
SD44	Ⅲ-30区	(N80°W)	山6条10里24坪中線	中線想定線	60	40		肥前系磁器染付鉢、瀬戸美濃陶器皿	20		(Ⅱ)
SD45	Ⅲ-24～25区	(N10°E)	山6条10里19坪中線	中線想定線から西20m	50	10	43				(Ⅱ)
SD46	Ⅲ-25区	(N10°E)	山6条10里19坪中線	中線想定線から西20m	80	20	18	肥前磁器染付皿・灰付鉢、大谷焼 ・漆料、信楽系陶器染付等	19		(Ⅱ)
SD47	Ⅲ-29区	(N10°E)	山6条10里19坪中線	中線想定線から西20m	50	15	(12)		19～		(Ⅱ)
SD47	Ⅲ-29区	(N80°W)	山6条10里19坪中線	中線想定線から西18m	50	15	(5)		19～		(Ⅱ)
SD49	Ⅲ-32区	(N10°E)	山6条10里19坪	坪界想定線から東2m	60	10	7	瀬戸美濃磁鉢、瀬戸美濃陶器片等	18～		(Ⅱ)
SD53	Ⅲ-24,25区	(N10°W)	山6条10里19坪中線	中線想定線	60	10	(48)		17～		(Ⅱ)
SD53	Ⅲ-25,23区	(N80°W)	山6条10里19坪中線	中線想定線から南13m	60	10	(24)		17～		(Ⅱ)
SD54	Ⅲ-23区	(N10°E)	山6条10里19坪中線	中線想定線から東22m	40	30	2	瀬戸系陶器染付鉢	19前		(Ⅱ)
SD55	Ⅲ-23区	(N10°W)	山6条10里19坪中線	中線想定線から東24m	80	20	15	土師質土器器胎	18		(Ⅱ)
SZ61	Ⅲ-26区	(N10°E)	山6条10里19坪中線	中線想定線から南5m	190	20	27.5				SD42北側に併設(Ⅱ)
SZ62	Ⅲ-22区	(N10°E)	山6条10里19坪中線	坪界想定線から西17m	130	10	8				SZ63の東15m(Ⅱ)
SZ03	Ⅲ-22区	(N10°E)	山6条10里19坪中線	坪界想定線から東25m	60	0.5	6.3				SD54.55の間(Ⅱ)

※ 備考欄末尾の括弧書き数字は、遺構の掲載順付番を示す((3)～(6)は、概観中行年次、(1)～(Ⅲ)は、報告書年次を示す)。

3. 多肥松林遺跡

遺構番号	調査区	流砂方向	検出位置(坪番号)	現況境界線との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD16	II区(N7-E)	香1条13里31・32坪界	II区(N7-E)	現況境界線上	130	30	24	土師器片, 須恵器片	12後		1
SD19	III区(N6-E)	香1条13里32・33坪界	III区(N6-E)	境界想定線から西3m	40	5	8	土師器片, 須恵器片, 瓦器陶片	13後		2

5. 松林遺跡

遺構番号	調査区	流砂方向	検出位置(坪番号)	現況境界線との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD101	I~V区(N81-N)	香1条14里7・18坪	(N81-N)	境界想定線より南2m	100	30	100	須恵器片	14	最下層9C遺物	1
SD102	IV区(N8-E)	香1条14里12・13坪界	(N8-E)	境界想定線より南2m	100	30	30	2,8 瓦し	14		2
SD103	II区(N81-N)	香1条14里7坪	(N81-N)	境界想定線より南2m	100	10	1.6	なし	14		3
SD104	V区(N81-N)	香2条14里12・13坪界	(N81-N)	境界想定線より南2m	40	10	6.0	土師器土師片	14		4
SD105	II・III区(N81-N)	香1条14里7・18坪界	(N81-N)	境界想定線より南2m	160	50	約30.0	須恵器・瓦片, 漆鉢口縁部片, 須恵器陶片	18		5

6. 日暮・松林遺跡

遺構番号	調査区	流砂方向	検出位置(坪番号)	現況境界線との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD37	C区(N81-N)	香1条14里9・4坪界	(N81-N)	境界里道より北3m	390	50	18.9	土師質焼・石鉢・土師片, 甕山	13~16		1
SD38	C区(N81-N)	香1条14里9・16坪界	(N81-N)	境界里道上	(50)		約15.0	土師器片, 土師質土器片, 須恵器	17~19	北半大部分が調査区外	2
SD51	D区(N80-N)	香1条13・14里界	(N80-N)	境界地界線上	約200	3.5	約11.0	瓦器陶片, 土師質焼・土師片, 須恵器片	17~19		3

7. 一角遺跡

遺構番号	調査区	流砂方向	検出位置(坪番号)	現況境界線との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD01東	(N9-E)	山8条10里10坪中線	(N9-E)	中線想定線から東15m	(170)	(40)	(41)		20		1
SD01南	(N77-W)	山8条10里10坪中線	(N77-W)	中線想定線の上	(170)	(40)	(22.5)		20		2

8. 宮西一角遺跡

遺構番号	調査区	流砂方向	検出位置(坪番号)	現況境界線との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD001	(N20-W)	山8条10里6・7坪界	(N20-W)	境界想定線との隔たり	130	4	4		20		1
SD002	(N24-W)	山8条10里7・8坪界	(N24-W)	境界想定線から南25m	130	2.4	2.4		20		2
SD003	(N25-W)	山8条10里8・17坪界	(N25-W)	境界想定線から東7m	260	5.2	5.2		14後半		3
SD04東	(N25-W)	山8条10里8・17坪界	(N25-W)	境界想定線の上	130	2.60	2.60		14後半		4
SD04南	(N5-W)	山8条10里7坪中線	(N5-W)	中線想定線から北5m	130	2.8	2.8		14後半		5
SD05	(N28-E)	山8条10里17坪中線	(N28-E)	中線想定線から西5m	240	3.6	3.6		20		6

6. 富西一角遺跡 (つづき)

遺構番号	調査区	法路方向	検出位置 (坪番号)	現状坪界線との隔たり	検出幅 (cm)	残存深さ (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD06	(N20° W)	山8条10里8・17坪界	山8条10里8・17坪界	坪界東定線から北20m	130		6.4		20		7
SD07	(N11° W)				460		2.4		20		8
SD08	(N11° W)				460		2.4		20		9
SD09	(N5° E)	山5条10里9坪中線	山5条10里9坪中線	坪界東定線から西17.5m	130		2.4		17~19		10
SD10	(N79° W)	山5条10里4・9坪界	山5条10里4・9坪界	中線東定線から北10m	180		5.2		17~19		11
SD11	(N2° W)	山8条10里9・10坪界	山8条10里9・10坪界	坪界東定線から西10m	180		2.4		17~19		12

1.0 空堀跡遺構群 (亀の町II)

遺構番号	調査区	法路方向	検出位置 (坪番号)	現状坪界線との隔たり	検出幅 (cm)	残存深さ (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD01	(N20° E)	山6条10里31坪	山6条10里31坪	坪界東定線	50	5	30.0	なし	18以降		1
SD02	(N63° W)	山6条10里31坪	山6条10里31坪	坪界東定線より北4m	40	15	18.0	瓦質土器碗、瓦器碗、黒色土器碗、須恵器杯身	12後?	SD02と遺跡偏溝を形成	2
SD03	(N63° W)	山6条10里31坪	山6条10里31坪	坪界東定線	140	20	19.6	須恵器杯身、須恵器杯片	12後		3
SD04	(N63° W)	山6条10里31坪	山6条10里31坪	坪界東定線より南5m	330	35	22.0	瀬戸美濃焼、陶砂片	18後		4

1.2 上天神遺跡

遺構番号	調査区	法路方向	検出位置 (坪番号)	現状坪界線との隔たり	検出幅 (cm)	残存深さ (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD02	4区(N10° E)	香4条16里14・15坪界	香4条16里14・15坪界	坪界水路より東6m	210	20	35.0	須恵器杯身・杯蓋片、菅生土器	8~12	SD05の東6m地点	1
SD03	4区(N15° E)	香4条16里14・15坪界	香4条16里14・15坪界	坪界水路より東10m	60	15	11.2	須恵器杯片	11・12	SD02の東4m地点	2
SD04	4区(N78° W)	香4条16里11・14坪界	香4条16里11・14坪界	坪界池邊防に直線	110	15	84.0	須恵器杯片、土師器杯片、龜山焼	8~10		3
SD05	4区(N10° E)	香4条16里14・15坪界	香4条16里14・15坪界	坪界水路に直線	550	不明	30.0	須恵器杯片	13~14	2時期の張り直し	4

1.4 蜂屋遺跡

遺構番号	調査区	法路方向	検出位置 (坪番号)	現状坪界線との隔たり	検出幅 (cm)	残存深さ (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD01	2区(N10° E)	香2条16里16坪中線	香2条16里16坪中線	坪界水路より西22.5m	250	28	13.0	須恵器杯蓋・身片、土師器杯片	11		1
SD02	2区(N10° E)	香2条16里16坪中線	香2条16里16坪中線	坪界水路より西19m	150	(15)	(15m)		11~12	現坪界の西22.5m地点	2

1.7 井手東1遺跡

遺構番号	調査区	法路方向	検出位置 (坪番号)	現状坪界線との隔たり	検出幅 (cm)	残存深さ (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD01	(N10° E)	香1条16里11・12坪界	香1条16里11・12坪界	坪界水路より西5.6m	215	34	35.0	須恵器杯・杯蓋・皿・碗片、土師土師土蓋土蓋土蓋	12後半		1

1.8 さこ・長瀬山遺跡

遺構番号	調査区	道路方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔たり 境界水路(旧境界線)と 重なり	検出層 (cm)	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD01	1区	(N8°E)	山9条12里12坪・ 香1条16里12坪界	境界水路より東 7m	65	15	24.0	なし	8~12?		1
SD02	1区	(N10°E)	山9条7里12坪・ 香1条16里12坪界	境界水路より東 7m	70	10	36.5	なし	8~12?		2

1.9 さこ・長瀬遺跡

遺構番号	調査区	道路方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔たり 境界水路より東 6m <th>検出層 (cm)</th> <th>残存深度 (cm)</th> <th>検出延長 (m)</th> <th>出土遺物等</th> <th>時期</th> <th>備考</th> <th>図面 番号</th>	検出層 (cm)	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD01	3区	(N7°E)	山8条12里7・8坪界	境界水路より東 12.2m	20	5	6.6	なし	7~9?		1
SD02	3区	(N7°E)	山8条12里7・8坪界	境界水路より東 12.2m	—	5	15.8	なし	7~9?		2
SD03	3区	(N10°E)	山8条12里7・8坪界	境界水路より東 26.5m	—	10	19.0	なし	8~12?		3
SD12	2区	(N11°E)	山8条12里9・10坪界	境界水路と重複	(340)	25	10.5	なし	17以降		4

2.0 さこ・松ノ木遺跡

遺構番号	調査区	道路方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔たり 境界水路より東 16m <th>検出層 (cm)</th> <th>残存深度 (cm)</th> <th>検出延長 (m)</th> <th>出土遺物等</th> <th>時期</th> <th>備考</th> <th>図面 番号</th>	検出層 (cm)	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD01	2区	(N16°E)	山8条12里10・11坪界	境界水路より東 16m	280	37	19.0	なし	13~14		1
SD12	2区	(N8°E)	山8条12里10・11坪界	境界水路より東 5m	25	10	4.0	発行鏡片、磨石鏡片	18以降		2

2.1 林・坊城遺跡

遺構番号	調査区	道路方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔たり 境界水路より東 48m <th>検出層 (cm)</th> <th>残存深度 (cm)</th> <th>検出延長 (m)</th> <th>出土遺物等</th> <th>時期</th> <th>備考</th> <th>図面 番号</th>	検出層 (cm)	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD07	D 2区	(N18°E)	山7条12里9坪中線	境界水路より東 57m	30	10	(37.5)	須恵青磁底器片	8~12	前半部は更に高出	1
SD08	D 2.3区	(N78°E)	山7条12里9坪中線	境界水路より東 45m	70	15	(20.2)	土師器壺片	8~12		2
SD09	D 2.3区	(N16°E)	山7条12里9坪中線	境界水路より東 35.7m	80	10	(3.6)	土師器壺片・須恵青磁片	8~12		3
SD13西	F 2区	(N19°E)	山7条12里11坪中線	境界水路より東 60.9m	70	10	(21.5)	土師質土器片	13~16		4
SD13南	F 2区	(N17°E)	山7条12里11坪中線	境界水路より東 50.2m	70	10	(13.6)	土師器杯片・底器片、須恵青磁片	13~16		5
SD16	G 2.3区	(N19°E)	山7条12里12坪中線		(113)	25	(20.0)				6

2.5 天満宮西遺跡

遺構番号	調査区	道路方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔たり 境界水路より北 10m <th>検出層 (cm)</th> <th>残存深度 (cm)</th> <th>検出延長 (m)</th> <th>出土遺物等</th> <th>時期</th> <th>備考</th> <th>図面 番号</th>	検出層 (cm)	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD04	11区	(N80°E)	香1条18里16・21坪界	境界水路より北 30m	70	9	15.5		不明		1
無番	10区	(N79°E)	香1条18里21坪中線	境界水路より北 30m	180	11.3	16.0		17~19		2
無番	9区	(N80°E)	香1条18里21坪中線	境界水路より北 49m	65	8	16.0		17~19		3

2.6 松嶺下所遺跡

遺跡番号	調査区	道路方向	出土位置(採番号)	現況(境界線との関係)	検出層	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD03	1.2区	(N9°E)	香1条17里28.21.16°	境界道路より西14m	(180)	(45)	(267.4)		7後~8		1
SD04西		(N9°E)	香1条17里27.22.15°	境界道路より西16m	(100)	(25)	(106.0)				2
SD04南	1区	(N7°E)	香1条17里27.22°	境界道路より西16m 中線想定線より北18.5	(80)	(15)	(5.6)		7後~8		3
SD05西		(N9°E)	香1条17里21.16°	境界道路より西16m	(120)	(35)	(138.0)				4
SD05北	1.2区	(N7°E)	香1条17里22.15°	中線想定線より北16m	(80)	(20)	(4.4)		7後~8		5
SD06	1区	(N6°E)	香1条17里21°	中線想定線より西7m	(110)	(22)	(34.0)				6
SD07-1	1区	(N7°E)	香1条17里21.22°	境界道路より西17m	(110)	(10)	(6.0)		7後~8		7
SD07-2	1区	(N7°E)	香1条17里21.22°	境界道路より西15m	(70)	(20)	(16.0)				8
SD07-3	1区	(N13°E)	香1条17里21.28°	境界道路より西21m	(80)	(20)	(7.0)		7後~8		9
SD09	1区	(N75°E)	香1条17里21.28°	境界道路より北16.5	(120)	(30)	(5.0)		7後~8		10
SD10	1区	(N83°E)	香1条17里21.28°	中線想定線より北19.5	(100)	(30)	(5.4)		7後~8		11
SD21	1区	(N77°E)	香1条17里21.28°	境界道路より北6m	(50)	(10)	(4.0)		7後~8		12
SD29	1区	(N77°E)	香1条17里16.21°	境界道路より北22m	(70)	(10)	(6.4)		7後~8		13
SD30	1区	(N69°E)	香1条17里16.21°	境界道路より北20m	(70)	(15)	(6.3)		7後~8		14
SD33	1区	(N89°E)	香1条17里16.21°	境界道路より北19m	(70)	(12)	(12.0)		7後~8		15
SD34	1区	(N80°E)	香1条17里16.21°	境界道路より北22m	(120)	(30)	(5.6)		7後~8		16
SD35	1区	(N80°E)	香1条17里16.21°	境界道路より北20m	(40)	(5)	(3.5)		7後~8		17
SD36	2区	(N77°E)	香1条17里16°	境界道路より北24m	(80)	(10)	(6.0)		7後~8		18
SD37	2区	(N77°E)	香1条17里16°	中線想定線より北24.5	(120)	(35)	(6.0)		7後~8		19
SD43	2区	(N77°E)	香1条17里16°	中線想定線より北24.5	(120)	(25)	(6.0)		7後~8		20

2.9 キモント一遺跡

遺跡番号	調査区	道路方向	出土位置(採番号)	現況(境界線との関係)	検出層	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD12南	3区	(N81°E)	香2条17里4.9°	境界道路より北9m	(3.0~)	-	(105)		16後埋没		1
SD12南		(N81°E)	香2条17里9.10°	境界想定線と重複	(4.0)	(160)	(16)				

3.0 四郎遺跡

遺跡番号	調査区	道路方向	出土位置(採番号)	現況(境界線との関係)	検出層	残存深度 (cm)	検出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面 番号
SD12	3区	(N81°E)	香1条14里28.33°	境界道路より北9m	(100)	(20)	(17.0)		不明		1
SD13	3区	(N81°E)	香1条14里28.33°	境界道路より北10m	(100)	(10)	(17.0)		不明	西半分や北へ延伸	2

3.2 中間西井坪遺跡

遺構番号	調査区	遺跡方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔り	検出層	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図番
SD09	Ⅱ区(N20°E)	香11条12里23坪中線	香11条12里23坪中線	現況境界線との隔り	(40)	(6)	(6)		12~16	8里北に掘削	1
SD10	Ⅱ区(N16°E)	香11条12里23坪中線	中線町定線より東24m	中線町定線より東24m	(160)	(3.6)	(3.6)	須里器林底部片	12~16	8里北に掘削	2
SD16	Ⅴ区(N10°E)	香11条12里23坪中線	中線町定線より東34m	中線町定線より東34m	(160)	(6)	(6)		12~16	8里北に掘削	3
SD18	Ⅴ区(N80°E)	香11条12里23坪中線	坪界道路より北22m	坪界道路より北22m	(40)	(7.2)	(7.2)		12~16	SD02と同じ	4
3.3 正結遺跡・薬生寺遺跡											
遺構番号	調査区	遺跡方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔り	検出層	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図番
SD01	Ⅰ区(N9°E)	香10条12里31坪中線	香10条12里31坪中線	現況境界線との隔り	820	30	31	土師器小皿, 須里器杯蓋・杯, 須里土師器小皿, 土師器杯・觥, 須里土師器片, 鉄鏃	11	8里北に掘削	1
SD02	Ⅰ区(N80°W)	香10条12里30-31坪界	坪界地帯界より北7m	坪界地帯界より北7m	870	20	25	須里器杯・觥	11	SD03と同じ	2
SD03	Ⅰ区(N80°W)	香10条12里30-31坪界	坪界地帯界より北20m	坪界地帯界より北20m	200	20	16	須里器杯・觥部片	11	8里北に掘削	3
SD04	Ⅰ区(N80°W)	香10条12里30-31坪界	坪界地帯界より北5.5m	坪界地帯界より北5.5m	100	20	25	土師器觥, 須里器杯蓋	8		4
SD09	Ⅱ区(N80°W)	香10条12里31坪中線	中線町定線	中線町定線	70	20	32.2	土師器小皿, 須里器杯蓋・杯身・杯, 土師器觥	8		5
SD10	Ⅱ区(N80°W)	香10条12里31坪中線	中線町定線	中線町定線	160	40	10	土師器觥・肥土片觥, 須里器杯蓋	8		6
SD11	Ⅱ区(N2°E)	香10条12里31坪中線	中線町定線	中線町定線	80	20	25	土師器杯・把手片觥, 須里器杯蓋	8		7
SD12	Ⅱ区(N2°E)	香10条12里31坪中線	中線町定線	中線町定線	80	40	33	土師器觥・觥, 須里器杯	8		8
SD19	Ⅰ・Ⅱ区(N22°E)	香10条12里31坪中線	中線町定線より東10m	中線町定線より東10m	100	40	140.3	土師器小皿, 須里器杯蓋・杯身・杯	12~16		9
SD20	Ⅰ・Ⅱ区(N22°E)	香10条12里31坪中線	中線町定線より東7m	中線町定線より東7m	(110)	(18)	113	白磁陶, 須里器杯蓋	17~		10
SD21	Ⅳ区(N80°E)	香10条13里6-7坪界	坪界町定線	坪界町定線	160	20	5	瓦片觥	12~16		11
SD22	Ⅳ区(N78°E)	香10条13里6-7坪界	坪界町定線より北3m	坪界町定線より北3m	140	20	5	瓦質土器觥	12~16		12
SD23	Ⅳ区(N78°E)	香10条13里7坪中線	中線町定線より北15m	中線町定線より北15m	170	35	5	石臼片	17~		13
SD24	Ⅳ区(N14°E)	香10条13里7坪中線	中線町定線より東7m	中線町定線より東7m	180	30	3.5	覆水甕	17~		14
3.4 元塚遺跡											
遺構番号	調査区	遺跡方向	検出位置(坪番号)	現状境界線との隔り	検出層	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図番
SD02	Ⅴ区(N13°E)	香9条12里14坪中線	香9条12里14坪中線	現況境界線との隔り	420	60	(13.2)	瓦質土器觥, 瓦片觥, 白磁陶	13~14		1
SD10	Ⅴ区(N8°E)	香8条12里17-18坪界	坪界道路より西30m	坪界道路より西30m	(40)	—	(13.2)	土師器陶片	~16		2
SD15	Ⅴ区(N10°E)	香9条12里13-14坪界	坪界町定線より西5m	坪界町定線より西5m	(200)	—	(13.2)		18		3
SD25	Ⅴ区(N25°E)	香9条12里8-9坪界	坪界町定線より西	坪界町定線より西	(200)	—	(8)		17~		4
SD25	Ⅴ区(N27°E)	香9条12里12-13坪界	坪界町定線より北16m	坪界町定線より北16m	(700)	—	(35.2)		17~		5
SD1002	Ⅴ区(N10°E)	香9条12里15坪中線	中線町定線	中線町定線	(180)	—	(8)		13~14		6
SD1004	Ⅴ区(N10°E)	香9条12里15-16坪界	坪界道路より西	坪界道路より西	(80)	—	(6)		13~14		7
SD1006	Ⅴ区(N64°E)	香9条12里9-16坪界	坪界道路より北21m	坪界道路より北21m	(80)	—	(9.6)		13~14		8
SD1007	Ⅴ区(N73°E)	香9条12里9-16坪界	坪界道路より北21m	坪界道路より北21m	(80)	—	(8)		13~14		9
SD1007	Ⅴ区(N3°E)	香9条12里15-16坪界	坪界道路より西8m	坪界道路より西8m	(60)	—	(8)		13~14		10
SD1011	Ⅴ区(N17°E)	香9条12里15-16坪界	坪界道路より西18m	坪界道路より西18m	(100)	—	(13.2)		13~14		11
SD1015	Ⅴ区(N70°E)	香9条12里9-16坪界	坪界道路より北15m	坪界道路より北15m	(160)	—	(18)		13~14		12
SD1019	Ⅴ区(N82°E)	香9条12里9-16坪界	坪界道路より北15m	坪界道路より北15m	(60)	—	(9.6)		13~14		13
SD1029	Ⅴ区(N81°E)	香9条12里11-14坪界	坪界道路より北15m	坪界道路より北15m	(180)	—	(15)		17~19	北端でNに湾曲	14

3.5 集塵弁選別

選別番号	調査区	流路方向	輸出位置(井番号)	現況境界線との隔たりの距離	検出量 (cm)	残存容量 (cm)	抽出長さ (m)	出土遺物等	時期	備考	図番
SD01	I区(N78°E)	香10条17里30-31坪中線	坪原道路より東32m	(130)	(50)	(4)	(4)		17~19		
SD02	I区(N21°E)	香10条17里30坪中線	坪原道路より東14m	(120)	(45)	(6)	(6)	磁石、陶片磁等	17~19		
SD04	I区(N79°E)	香10条17里30坪中線	中線空室線より東14m	(36)	(14)	(4)	(4)		8~16		
SD05	I区(N10°E)	香10条17里30坪中線	中線空室線より東12m	(60)	(45)	(8)	(8)	陶片磁種粒、土器、羽釜等	17~19		
SD01	III-1区(N12°E)	香10条18里8-9-16-17 架立文点上		(480)	(40)	(5.2)	(5.2)	陶片土器等	12~19		
SD01	III-1区(N75°E)	香10条18里8-17坪原	坪原道路より東32m	(50)	(20)	(4.8)	(4.8)	土器、種粒等	17~19		
SD01	III-2区(N11°E)	香10条18里16-17坪原	坪原道路より東6m	(65)	(8)	(6)	(6)	土師質土器	12~16		
SD02	III-2区(N7°E)	香10条18里16-17坪原	坪原道路より東24m	(60)	(10)	(5)	(5)		12~16		
SD03	III-2区(N3°E)	香10条18里16-17坪原	坪原道路より東26m	(60)	(20)	(5)	(5)		12~16		
SD01	III-3区(N70°E)	香10条18里16坪中線	中線空室線より北30m	(50)	(15)	(2.8)	(2.8)		11後		
SD01	IV区(N77°E)	香10条18里21-22坪原	坪原空室線より北25m	(117)	(25)	(1.3)	(1.3)		11後		
SD02	IV区(N5°E)	香10条18里21-22坪原	坪原空室線より西29m	(90)	(23)	(3.5)	(3.5)		11後		
SD03	IV区(N5°E)	香10条18里21-22坪原	坪原空室線より西27m	(62)	(16)	(6.4)	(6.4)		11後		
SD04	IV区(N5°E)	香10条18里21-22坪原	坪原空室線より西30m	(322)	(52)	(7.7)	(7.7)	黒色土器	17~		
SD05	IV区(N5°E)	香10条18里21-22坪原	坪原空室線より西32m	(18)	(4)	(3.7)	(3.7)		17~		
SD06	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北35m	(18)	(1)	(2.6)	(2.6)		17~		
SD07	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北26m	(56)	(10)	(4.1)	(4.1)		17~		
SD08	IV区(N20°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より西25m	(22)	(9)	(4.3)	(4.3)		17~		
SD09	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北24m	(34)	(4)	(3.75)	(3.75)		~11後		
SD10	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より西50m	(87)	(7)	(6)	(6)		11後		
SD11	IV区(N78°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北20m	(25)	(6)	(3.6)	(3.6)		~11後		
SD13	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北19m	(39)	(8)	(2.8)	(2.8)		11後		
SD14	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北17m	(25)	(6)	(5.3)	(5.3)		~11後		
SD15	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北17m	(16)	(4)	(5.2)	(5.2)		~11後		
SD17	IV区(N10°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北17m	(18)	(6)	(5)	(5)		11後		
SD18	IV区(N10°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より東17m	(13)	(7)	(5)	(5)		11後		
SD19	IV区(N10°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より東16m	(13)	(7)	(5)	(5)		11後		
SD20	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より東15m	(40)	(7)	(6.8)	(6.8)		11後		
SD21	IV区(N80°E)	香10条18里21坪中線	中線空室線より北9m	(23)	(6)	(8.4)	(8.4)		11後		
SD22	IV区(N10°E)	香10条18里21坪	坪内区画溝	(28)	(10)	(0.8)	(0.8)		~11後		
SD23	IV区(N80°E)	香10条18里21坪	中線空室線より北6m	(20)	(4)	(3.6)	(3.6)		~11後		
SD24	IV区(N10°E)	香10条18里21坪	坪内区画溝	(22)	(8)	(6.5)	(6.5)		~11後		
SD25	IV区(N10°E)	香10条18里21坪	坪内区画溝	(23)	(6)	(2.5)	(2.5)		~11後		
SD26	IV区(N80°E)	香10条18里21坪	中線空室線より北4m	(44)	(7)	(5)	(5)		~11後		
SD27	IV区(N80°E)	香10条18里21坪	中線空室線より南2m	(37)	(8)	(2)	(2)		17~		
SD28	IV区(N10°E)	香10条18里21坪	坪内区画溝	(30)	(8)	(6)	(6)		~11後		
SD29	IV区(N10°E)	香10条18里21坪	坪内区画溝	(340)	(49)	(1.40)	(1.40)		11後		
SD01	IV-①区(N5°E)	香10条18里21-22坪原	坪原空室線より西25m	(120)	(50)	(12)	(12)	黒色土器類、土師質土器	11後		
SD02	IV-②区(N5°E)	香10条18里21-22坪原	坪原空室線より西19m	(340)	(50)	(12)	(12)		11後		
SD03	IV-②区(N80°E)	香10条18里21-28坪原	坪原空室線より南9m	(40)	(10)	(5)	(5)		12~16		

3.5 泉無傷井遷跡 (つづき)

遷移前	遷移後	遷移距離 (m)	抽出位置 (坪番号)	現況	現況境界線との間取り	陥出量 (cm)	残存深度 (cm)	抽出延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD01	V-0区 (N80* 9)	香10 条18 里21・28 坪界	香10 条18 里21・28 坪界	現況境界線より北23.7m		(74)	(18)	(2.7)		12～16		
SD02	V-0区 (N80* 9)	香10 条18 里21・28 坪界	香10 条18 里21・28 坪界	坪界道路より北20m		(50)	(12)	(4.7)		12～16		
SD03	V-0区 (N80* 9)	香10 条18 里21・28 坪界	香10 条18 里21・28 坪界	坪界道路より北11.2m		(64)	(14)	(7.6)		12～16		
SD04	V-0区 (N80* 9)	香10 条18 里21・28 坪界	香10 条18 里21・28 坪界	坪界道路より北8.7m		(50)	(8)	(8.4)		12～16		
SD02	V-2区 (N10* 5)	香10 条18 里27・28 坪界	香10 条18 里27・28 坪界	坪界道路より東7m		(44)	(5)	(6)		12～19		
SD03	V-2区 (N10* 5)	香10 条18 里27・28 坪界	香10 条18 里27・28 坪界	坪界道路より東6m		(50)	(4)	(6.6)		12～19		
SD04	V-2区 (N10* 5)	香10 条18 里27・28 坪界	香10 条18 里27・28 坪界	坪界道路より東4m		(34)	(5)	(6)		12～19		
SD05	V区 (N10* 5)	香10 条18 里8 坪中線	中線町定線より東6m	中線町定線より東6m		(45)	(8)	(7.5)	亀山楼等	12～16		
SD06	V区 (N80* 9)	香10 条18 里8 坪中線	中線町定線より北15m	中線町定線より北15m		(50)	(10)	(16.5)		12～16		
SD07	V区 (N80* 9)	香10 条18 里8 坪中線	中線町定線より東4m	中線町定線より東4m		(50)	(20)	(26)	雑林、瓦、灰付等	17～19		
SD08	V区 (N80* 9)	香10 条18 里8 坪中線	中線町定線より北24m	中線町定線より北24m		(30)	(20)	(15)		17～19		
SD01	V区 (N10* 5)	香10 条18 里16・17 坪界	坪界道路より東5m	坪界道路より東5m		(245)	(60)	(3.5)		11後～19		
SD02	V区 (N10* 5)	香10 条18 里16・17 坪界	坪界道路より東11m	坪界道路より東11m		(75)	(4)	(23)		14～16		
SD03	V区 (N10* 5)	香10 条18 里16・17 坪界	坪界道路より東12m	坪界道路より東12m		(48)	(2)	(18)		14～16		
SD04	V区 (N10* 5)	香10 条18 里16・17 坪界	坪界道路より東15m	坪界道路より東15m		(55)	(5)	(16)		14～16		
SD01	V区 (N10* 5)	香10 条18 里20・21 坪界	坪界道路より北12m	坪界道路より北12m		(120)	(37)	(22)		11後～16		
SD02	V区 (N10* 5)	香10 条18 里20・21 坪界	坪界道路より東22m	坪界道路より東22m		(60)	(14)	(12.5)		19		
SD03	V区 (N10* 5)	香10 条18 里20・21 坪界	坪界道路より西25m	坪界道路より西25m		(70)	(3)	(15)		8～16		
SD01	V区 (N10* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西9m	中線町定線より西9m		(50)	(7)	(5)		8～16		
SD02 西	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西9m	中線町定線より西9m		(25)	(6)	(5.5)		8～16		
SD02 東	V区 (N10* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西22m	中線町定線より西22m		(25)	(6)	(2.5)		8～16		
昭東 北	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より南20m	中線町定線より南20m		(30)	(10)	(6.2)		17～		
昭東 東	V区 (N)	香10 条18 里20・21 坪界	坪界道路より東26m	坪界道路より東26m		(30)	(10)	(5)		17～		
昭東 西	V区 (N10* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西25m	中線町定線より西25m		(50)	(10)	(37.5)		17～		
SD08	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より北25m	中線町定線より北25m		(119)	(2)	(2)		8～16		
SD09	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より北26m	中線町定線より北26m		(22)	(4)	(3)		8～16		
SD10	V区 (N10* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西3m	中線町定線より西3m		(16)	(4)	(3)		8～16		
SD11 西	V区 (N10* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より北15m	中線町定線より北15m		(40)	(5)	(7)		8～16		
SD11 東	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西8m	中線町定線より西8m		(40)	(5)	(7)	黒色土層	8～16		
SD12	V区 (N10* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西3m	中線町定線より西3m		(20)	(6)	(10)		8～16		
SD13	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より北21m	中線町定線より北21m		(70)	(2)	(3.2)		8～16		
SD14	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21・28 坪界	坪界道路より南23m	坪界道路より南23m		(18)	(5)	(3.7)		8～16		
SD15	V区 (N15* 5)	香10 条18 里21・28 坪界	坪界道路より東5m	坪界道路より東5m		(94)	(14)	(20)	緑褐色土、土層	8～16		
SD16	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21・28 坪界	坪界道路より南23m	坪界道路より南23m		(32)	(4)	(2.5)		8～16		
SD18	V区 (N15* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より東14m	中線町定線より東14m		(38)	(9)	(6)		8～16		
SD22	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西25m	中線町定線より西25m		(18)	(4)	(2.5)		8～16		
昭東 西	V区 (N10* 5)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より西14m	中線町定線より西14m		(40)	(16)	(30)		19		
昭東 南	V区 (N80* 9)	香10 条18 里21 坪中線	中線町定線より北7m	中線町定線より北7m		(40)	(16)	(10)		19		

3.5 尾藤井遺跡 (つづき)

遺構番号	調査区	流路方向	出土位置 (採集号)	現状境界線との隔り	検出範囲 (cm)	残存深度 (cm)	出土延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図番号
SD02	X1区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より西21m	坪界道路より西21m	(100)	(6)	(3.7)		8~16		
SD05	X1区 (N80° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より西24m	坪界道路より西24m	(200)	(24)	(16)	土師質甕, 土師	8~16		
SD10	X1区 (N80° E)	香10条18里21-28坪界	坪界道路より北12m	坪界道路より北12m	(200)	(46)	(10.2)		8~16		
SD11	X1区 (N80° E)	香10条18里21-28坪界	坪界道路より北9m	坪界道路より北9m	(80)	(26)	(15.7)		8~16		
SD13	X1区 (N15° E)	香10条18里28坪中線	中線定礎より東24m	中線定礎より東24m	(50)	(20)	(2.5)		8~16		
SD13	北	香10条18里21-28坪界	坪界道路より北18m	坪界道路より北18m	(50)	(20)	(7.5)		8~16		
SD04	X1区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より西18m	坪界道路より西18m	(80)	(32)	(22.5)	土師質甕, 土師	8~16		
SD05	X1区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より西21m	坪界道路より西21m	(100)	(52)	(20.5)	土師質甕, 土師	8~16		
SD06	X1区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より西25m	坪界道路より西25m	(70)	(26)	(15.5)		8~16		
SD15	X1区 (N80° E)	香10条18里28坪中線	中線定礎より南10m	中線定礎より南10m	(25)	(3)	(7.2)		17~		
SD19	X1区 (N10° E)	香10条18里28坪中線	中線定礎より東24m	中線定礎より東24m	(50)	(10)	(4.5)		8~16		
SD20	X1区 (N15° E)	香10条18里28坪中線	中線定礎より東25m	中線定礎より東25m	(20)	—	(4.5)		13~19		
SD04	X2区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より東8m	坪界道路より東8m	(84)	(12)	(7.5)		13~19		
SD05	X2区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より東6m	坪界道路より東6m	(30)	(4)	(6.7)		13~19		
SD06	X2区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より東4.5m	坪界道路より東4.5m	(38)	(6)	(4)		13~19		
SD08	X3区 (N10° E)	香10条18里27-28坪界	坪界道路より東1m	坪界道路より東1m	(44)	(18)	(10)		17~		

3.6 西打遺跡

遺構番号	調査区	流路方向	出土位置 (採集号)	現状境界線との隔り	検出範囲 (cm)	残存深度 (cm)	出土延長 (m)	出土遺物等	時期	備考	図番号
SD01	96-I区 (N77° E)	香10条18里34坪中線	坪界道路より東1.2m	坪界道路より東1.2m	(280)	(75)	(25) (30.5)				1
SD41	96-I区 (N80° E)	香10条18里34坪									2
SD55	96-I区 (N12° E)	香10条19里3坪	坪界道路より北18m	坪界道路より北18m	250	60	(40)				3
SD07	96-I区 (N80° E)	香10条18里34坪中線	中線定礎と重覆	中線定礎と重覆	40	5	(28)				4
SD01	97-I区 (N15° E)	香10条18里34-35坪界	坪界道路より西2m	坪界道路より西2m	240	80	20	19 青磁甕, 土師質甕	13後		5
SD02	97-I区 (N15° E)	香10条18里34-35坪界	坪界道路より東1m	坪界道路より東1m	90	20	14		13後		6
SD03	II区 (N10° E)	香10条19里2-3坪界	坪界道路より東2m	坪界道路より東2m	100	20	(62)		13後		7
SD04	II区 (N13° E)	香10条19里2坪中線	中線定礎より西25m	中線定礎より西25m	150	10	(76)		13後		8
SD06	東	香10条19里1.2坪界	坪界道路と重覆	坪界道路と重覆	50	10	(32)	灰土器碗, 土師質小皿, 土師質			9
SD06	西	香10条19里2坪中線	中線定礎より北25m	中線定礎より北25m	50	10	(36)	土釜	12中		10
SD08	II区 (N80° E)	香10条19里2坪中線	中線定礎より北9m	中線定礎より北9m	150	20	(48)	黒色土器陶片	12		11
SD09	II区 (N9° E)	香10条19里1.2坪界	坪界境界より東2m	坪界境界より東2m	160	10	42	土師質土釜片			12
SD10	II区 (N10° E)	香10条19里1.2坪界	坪界境界より東4m	坪界境界より東4m	40	15	41	土師質杯・小皿片	12中		13
SD12	III区 (N10° E)	香10条19里11坪中線	中線定礎より東3m	中線定礎より東3m	(60)	—	(32)				14
SD14	III区 (N10° E)	香10条19里11-12坪界	坪界境界より西7m	坪界境界より西7m	(340)	—	(47)				15
SD15	III区 (N12° E)	香10条19里11-12坪界	坪界境界と重覆	坪界境界と重覆	(360)	—	(84)				16
SD16	北	香10条19里2-11坪界	坪界道路と重覆	坪界道路と重覆	(80)	—	(44)		上層18		17
SD16	西	香10条19里13坪中線	中線定礎より東3m	中線定礎より東3m	(160)	—	(4.8)				18
SD17	IV区 (N15° E)	香10条19里25-26坪界	坪界境界と重覆	坪界境界と重覆	200	60	(85)		14		19

3 9 香西南西打瀬線

運轉番号	調査区	道路方向	検出位置(浮き号)	現況境界線との間た	検出幅	積存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD00 東	Ⅰ区	香10条20里16坪中線	香5条17里30坪	中線型定礎より西15m	(300)	(75)	(12)		16		1
SD00 南	Ⅱ区	香10条20里16坪中線	香6条17里25坪	坪界道路より南24m	(300)	(85)	(30)		16		2
SD00 西	Ⅲ区	香10条20里16坪中線	香10条20里16坪中線	中線型定礎より西15m	(500)	(40)	(12)		16		3

4 2 松並中所遺跡

運轉番号	調査区	道路方向	検出位置(浮き号)	現況境界線との間た	検出幅	積存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD00 東	Ⅰ区		香5条17里30坪	坪界道路に積礎	(150)	(18)	(34)		12 後～13 初		1
SD00 南	Ⅱ区		香6条17里25坪中線	中線型定礎より北8.5m	(150)	(18)	(7.2)				2

4 3 西八ヶ土器遺跡

運轉番号	調査区	道路方向	検出位置(浮き号)	現況境界線との間た	検出幅	積存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD00 西	Ⅰ区	(N15°E)	香5条17里34坪	坪界道路より東5m	(200)	(20)	(12)		17 初		1
SD00 南	Ⅱ区	(N74°W)	香5条17里35坪界	坪界道路より南30m	(170)	(10)	(32)		17 初	相接して道路敷	2
SD00 東	Ⅲ区	(N20°E)	香5条18里2坪界	中線型定礎より西18m	(240)	(15)	(7.3)		17 初		3
SD00 北	Ⅳ区	(N75°W)	香5条17里35坪中線	坪界道路より南36m	(240)	(35)	(20)		16 後	北接して道路敷	4
SD00 東	Ⅴ区	(N15°W)	香5条17里35坪中線	中線型定礎より南6m	(330)	(45)	(4.5)		16 後		5
SD00 西	Ⅵ区	(N18°E)	香4条17里31坪界	坪界道路より西24m	(140)	(10)	(7)		17 初		6
SD00 北	Ⅶ区	(N77°W)	香5条17里35坪界	坪界道路より南32m	(90)	(30)	(19)		17 初	北接して道路敷	7
SD00 東	Ⅷ区	(N18°E)	香5条17里35坪界	坪界道路より西4m	(140)	(20)	(9.5)		17 初		8

4 4 木太中村遺跡

運轉番号	調査区	道路方向	検出位置(浮き号)	現況境界線との間た	検出幅	積存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD1001	Ⅰ区	(N78°W)	山8条15里2坪界	坪界道路より西22m	(500)	(60)	(25)		17 ～19		1
SD1004	Ⅱ区	(N15°E)	山8条15里1坪界	坪界道路より南6m	(250)	(45)	(8)		17 ～19		2
SD2001	Ⅲ区	(N80°W)	山8条15里2坪界	坪界道路より北30m	(580)	(80)	(16)		17 ～19		3
SD3001	Ⅳ区	(N82°E)	山8条15里11坪界	坪界道路より南8m	(170)	(60)	(14.3)		17 ～19		4

4.9 川原西遺跡

遺構番号	調査区	流路方向	出土位置(坪番号)	現況	現況境界線との隔り(m)	検出範囲(cm)	残存深度(cm)	検出深度(m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD01	Ⅰ北強区(N10)	(E)	山4条15里30坪中線	現況境界線より東15m	(110)	0	(10.5)					1
SD07	Ⅰ北強区(N10)	(E)	山5条15里30坪中線	中線北変線より南17m	(270)	0	(10)					2
SD08	Ⅰ北強区(N80)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南21m	(130)	0	(1.4)					3
SD10	Ⅰ北強区(N10)	(E)	山5条15里30坪中線	中線北変線より南17m	(180)	0	(20)					4
SD11	Ⅰ北強区(N79)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南3m	(30)	0	(27.5)					5
SD12	Ⅰ北強区(N81)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南3m	(80)	0	(20.5)					6
SD12	Ⅰ北強区(N83)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線より西12m	(80)	0	(2.2)					7
SD13	Ⅰ北強区(N82)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南5m	(70)	0	(9.5)					8
SD14	Ⅰ北強区(N80)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南5m	(60)	0	(23)					9
SD15	Ⅰ北強区(N79)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南6m	(60)	0	(6.5)					10
SD16	Ⅰ北強区(N77)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南6m	(40)	0	(17)					11
SD17	Ⅰ北強区(N80)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南9m	(50)	0	(12.5)					12
SD18	Ⅰ北強区(N80)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南9m	(60)	0	(12.5)					13
SD19	Ⅰ北強区(N78)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南9m	(30)	0	(8)					14
SD20	Ⅰ北強区(N13)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より南5m	(110)	0	(21.5)					15
SD24	Ⅰ北強区(N77)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より西12m	(90)	0	(4.5)					16
SD24	Ⅰ北強区(N13)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より西12m	(90)	0	(4.5)					17
SD25	Ⅰ北強区(N10)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線より西7m	(50)	0	(15.5)					18
SD26	Ⅰ北強区(N8)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線より西7m	(30)	0	(14.5)					19
SD27	Ⅰ北強区(N4)	(E)	山5条15里30坪中線	中線北変線より西17m	(50)	0	(10)					20
SD28	Ⅰ北強区(N80)	(E)	山5条15里19-30坪界	中線北変線より北7m	(80)	0	(17)					21
SD30	Ⅰ北強区(N8)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線上	(160)	0	(19)					22
SD31	Ⅰ北強区(N8)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線より東1m	(40)	0	(19)					23
SD32	Ⅰ北強区(N8)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線より東3.5m	(90)	0	(19)					24
SD33	Ⅰ北強区(N8)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線より東4.5m	(20)	0	(19)					25
SD34	Ⅰ北強区(N8)	(E)	山5条15里29-30坪界	中線北変線より東5m	(50)	0	(19)					26

5.1 新田本村遺跡

遺構番号	調査区	流路方向	出土位置(坪番号)	現況	現況境界線との隔り(m)	検出範囲(cm)	残存深度(cm)	検出深度(m)	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD05	Ⅰ区(E)	(E)	山4条16里14-23坪界	現況境界線との隔り	(120)	0	(30)					1
SD05	Ⅰ区(N)	(N)	山4条16里23坪中線		(40)	(9)	(7.2)			17~19	遺る陶器の溝が切合な から伊集	2
SD06	Ⅰ区(N)	(N)	山4条16里23坪中線		(60)	(2)	(4.7)			17~19	遺る陶器の溝が切合な から伊集	3
SD10	Ⅰ区(E)	(E)	山4条16里14-23坪界		(100)	(10)	(35.2)			17~19	遺る陶器の溝が切合な から伊集	4
SD10	Ⅰ区(N)	(N)	山4条16里23坪中線		(60)	(15)	(9.7)			17~19	遺る陶器の溝が切合な から伊集	5
SD11	Ⅰ区(N)	(N)	山4条16里23坪中線		(80)	(22)	(4.3)			17~19		6
SD106	Ⅰ区(E)	(E)	山4条16里15坪中線		(450)	(70)	(45)			13		7
SD2002	Ⅰ区(E)	(E)	山4条16里14-23坪界		(300)	(140)	(17)			13		8

5.2 小川瀬谷遺跡

遺構番号	調査区	遺跡方向	検出位置(坪番号)	検出位置との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD701	V-VI区	N 88°E	山4 条16 里14・23 坪界	現況坪界線との隔たり 坪界地帯より南24m	(310)	(220)	(240)	土師器類、黒色土器、瓦片類	8~12 後	南下側5 平記 一部北へコ字状に突出	1
SD702	V 区	N 89°E	山4 条16 里14・23 坪界	坪界地帯より南24m	(169)	(73)	(102)	黒色土器杯・甕、須恵器杯・皿	9 後		2
SD715	V-VI区	N 88°E	山4 条16 里14・23 坪界	坪界地帯より南24m	(256)	(90)	(228)	黒色土器、土師器皿、須恵器杯	9 後	10 初級経年埋没	3

6.3 弘福寺菩提園北地区比定地

遺構番号	調査区	遺跡方向	検出位置(坪番号)	検出位置との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD01	B 区	N 80°W	山8 条12 里34 坪	現況坪界線との隔たり	(150)	(25)	(5)		8~12		1
SD02	B 区	N 80°W	山8 条12 里34 坪	突里区南溝	(60)	(10)	(5)		8~12	04 と同一	2
SD03	B 区	N 10°E	山8 条12 里34 坪	突里区南溝	(100)	(20)	(5)		8~12		3
SD04	B 区	N 10°E	山8 条12 里34 坪	突里区南溝	(80)	(10)	(5)		8~12	02 と同一	4
SD06	B 区	N 10°E	山8 条12 里34 坪	突里区南溝	(160)	(20)	(13)		8~12		5
SD09	C 区	N 70°W	山8 条12 里27・34 坪界	坪界地帯より北5m	(160)	(30)	(5)		8~12		6
SD10	C 区	N 70°W	山8 条12 里27・34 坪界	坪界地帯より北4m	(60)	(8)	(5)		8~12		7
SD12	C 区	N 70°W	山8 条12 里27・34 坪界	坪界地帯より北1.2m	(20)	(4)	(5)		8~12		8
SD14	D 区	N 10°E	山8 条12 里27 坪中線	坪界地帯より東65m	(100)	(20)	(5)		8~12		9
SD15	D 区	N 10°E	山8 条12 里27 坪中線	坪界地帯より東16m	(26)	(6)	(5)		8~12		10
SD16	D 区	N 10°E	山8 条12 里27 坪中線	坪界地帯より東17.5m	(64)	(6)	(5)		8~12		11

6.5 西原遺跡

遺構番号	調査区	遺跡方向	検出位置(坪番号)	検出位置との隔たり	検出幅	残存深度	検出延長	出土遺物等	時期	備考	図面番号
SD001	1~5 区	(N14°~22°E)	山1 条7 里27 坪中線	現況坪界線との隔たり 中線想定線より西8 m	30~80	5~26	4~12	須恵器、土師器	8		1
SD09	1~5 区	(N80°E)	山1 条7 里21・28 坪界	坪界想定線より北4 m	30~50	15	21	須恵器高台付杯身	8 後		2
SD13	2 区	(N80°E)	山1 条7 里21・28 坪界	坪界想定線より南	40	10	13	土師器			3
SD16	3 区	(N14°E)	山1 条7 里22・27 坪界	坪界想定線より南15 m	40	10	5	須恵器杯身・甕、土師器	8~9 前		4
SD17	3 区	(N14°E)	山1 条7 里22・27 坪界	坪界想定線より南18 m	80	10	15	須恵器高台付杯身、土師器皿	9		5
SD18	3 区	(N70°E)	山1 条7 里22・27 坪界	坪界想定線より南25 m	60	12	15	須恵器杯身	9		6

凡例：1. 条里間距離として抽出したのは、概ね現地表面で読みとれる条里境界線（現行の道路、水路、畦畔、地帯境界）に重複または平行する古代以降の溝状遺構（一部水田畦畔、道路遺構を含む）である。
2. 道路は、本報告第1部第2章第2節に掲げた比定地間辺距離地名表のうち、分類区分B：条里間距離遺構を含む遺構に該当するもので、遺跡番号も比定地間辺距離地名表に従っている。

3. 本表中の数値（道路方向、検出幅、残存深さ、検出延長）の表記に関しては、できるだけ調査報告書等に公式に記載された数値を用いた。本表作成のために新規に計測した数値については（ ）書きにて表記した。なお、「地帯境界線との隔たり」の数値はすべて本表作成にあたって計測したものである。

4. 空堀跡距離については現地所が条里に沿っていないことから、周辺部の地表面を延長した境界線距離を基準として採算したものである。

5. 条里遺構方位の判断は、次による現行境界線との位置関係を基準としたが、下記の条件から外れるものについても適宜搭載した。

(1) 現行境界線と重複または一部重複して平行する溝状遺構。
(2) 現行境界線から予想される条里距中線に一致または一部一致して平行する溝状遺構。

(3) 現行境界線または条里距中線と概ね11m以内の距離で平行する溝状遺構。

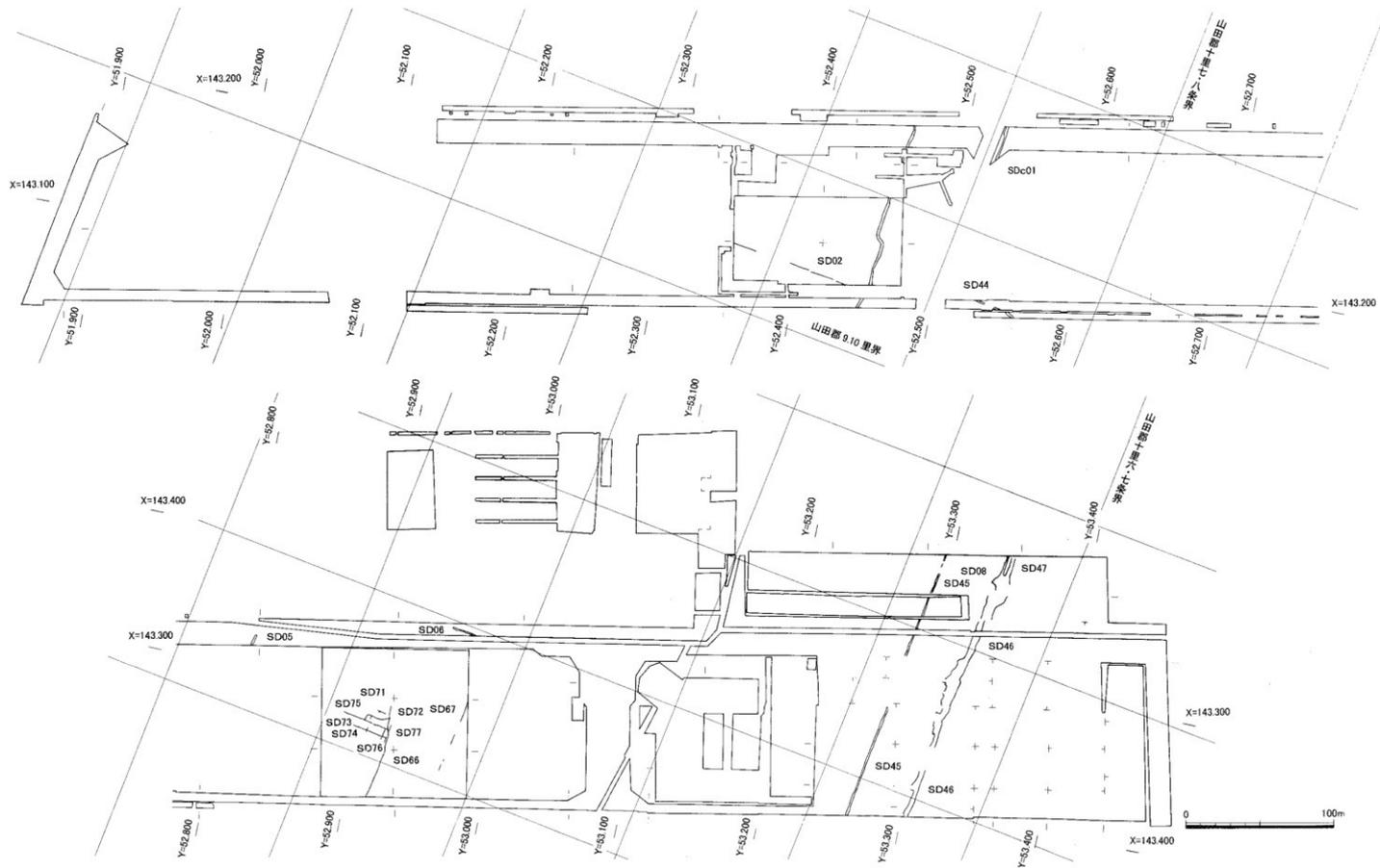
(4) 上記(1)～(3)に該当する溝状遺構と対応して道路跡等を形成するとと思われる溝状遺構。

(5) ただし、方向が一致していれば境界線から11m以上離れた場所であっても条里間距離遺構として抽出している。

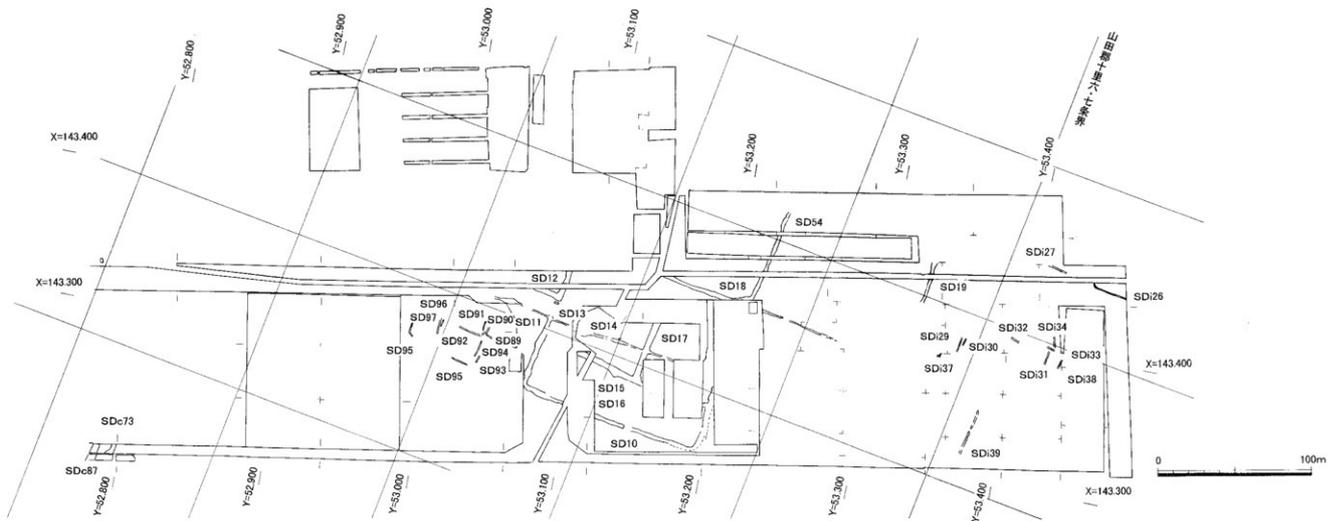
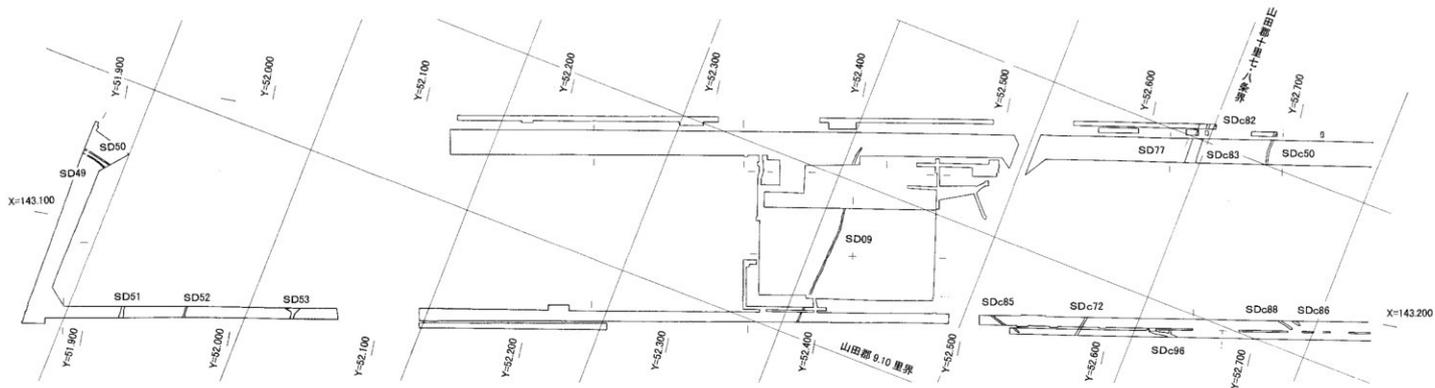
6. 本米、条里境界線に関係する遺構としては溝状遺構以外にも単列、雁立柱建物（配置方向）、水田畦畔、道路遺構等が想定できるが、資料操作が煩雑となるためここでは溝状遺構の一部の距離（溝状遺構と至近距離で平行するもの）にとどめた。道路跡距離については溝状遺構の備考事項として末尾に記した。

7. 遺跡番号については、報告書刊行済みのものについては報告書の記載により、未刊のものについては調査、年報等できるとき限り刊行物の遺跡番号を用いたが、中には（待）並松市教育委員会の調査によるものについては）一時的な仮番号によるものもある。

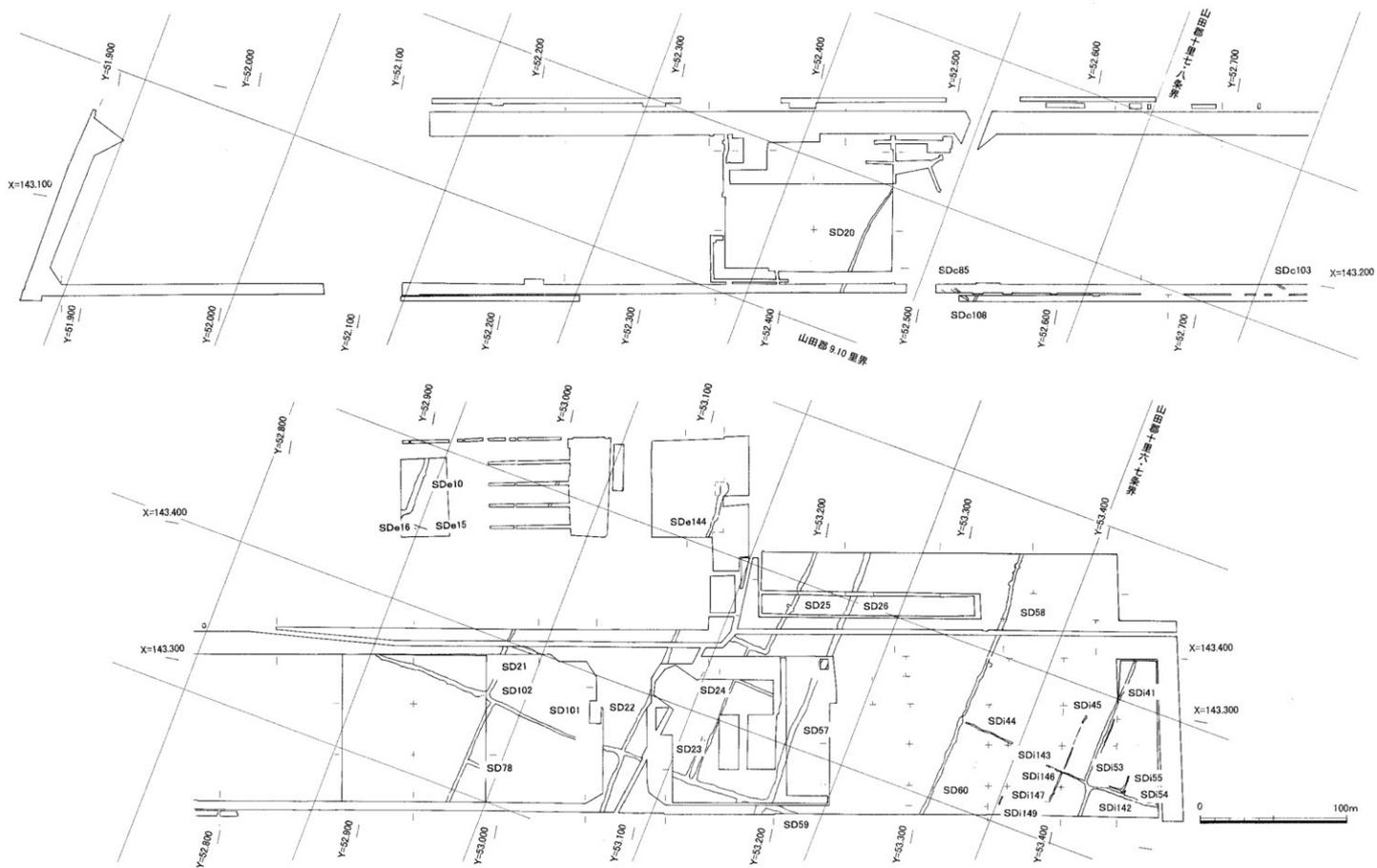
8. 遺構の時期については、世紀単位の中世、古代、中世、近世と記述してあるものについてはそれぞれ8～12世紀、13～16世紀、17～19世紀を当てた。



第 86 図 空港跡地遺跡条里遺構配置図(奈良・平安時代)



第 87 図空港跡地遺跡条理遺構配置図(鎌倉・室町時代)



第 88 図空港跡地遺跡条理遺構配置図(江戸時代以降)

1 方向について (第26表)

発掘調査された遺跡を分布と古代の郡界の位置からA～Fの6グループに分け、各グループごとに検出された溝状遺構の方向を、復原条里の方向からの振れによって、重なるもの(5度以内)、少し外れるもの(6～10度)、大きく外れるもの(10度より大)の3グループに分け、その割合を時代間で比較した。

その結果、

- 1類：重なるものの割合が古代から中世、近世・近現代へと順次下がっていくもの(D, E)
- 2類：重なるものの割合が中世で最も高く、古代、近世・近現代へと順に下がっていくもの(A)
- 3類：重なるものの割合が中世で最も高く、近世・近現代、古代の順に下がっていくもの(F)
- 4類：中世に重なるものがなく、その割合が近世・近現代、古代の順に下がるもの(C)
- 5類：重なるものの割合が古代、中世、近世・近現代で同じ(100%)であるもの(B)

の5類に分かれた。復原条里の方向が主に現代の地表の地割りから復元されたものである以上、重なるものの割合が近世・近現代から、中世、古代へと下がっていくことも想定されたが、結果はそれとは異なるものであり、むしろ正反対のものが認められた(1類)。これは復原条里が古代の条里と相似であることを示すものである。加えて、これは古代の条里地割の実施を明らかにすると共に、高松平野の条里地割の骨格が古代に完成されていたことを示すものである。しかし、その後の地割の展開に1類～5類の別が認められる点は、高松平野の開発が古代後半(平安期)以降は統一的行われることはなく、地域毎の展開であったことを示している。なお、山田郡-香川郡界に隣接して、山田郡側にA・Cグループ、香川郡側にB・Dグループが分布するが、古代において山田郡側グループの条里地割の方向に重なる溝割合が、香川郡のグループより低い。また、香川郡側のグループの中では鬼無藤井遺跡等のFグループの重なる割合が、他より低い(山田郡のCグループに近い)。郡界から離れる程度に従って地割方向の精度の下がることも推測されるが、条数を同じにするそれより南方のEグループの溝方向では、条里方向に重なるものが殆どであり、推測の不適當であることがわかる。中世、近世・近現代では、地割方向の重なり度は逆転する。Fグループの方が高くなるのである。地割方向の決定過程を明らかにすることは困難であるが、マスタープランと実施プランの二重構造が古代以来存在したことは明らかであり、それが古代後半の開発の個別性と複合して地割を複雑にしているのである。なお、条里地割りの方向から大きく外れる検出溝は、古代で11.4%、中世で17.6%、近世・近現代で14.4%であった。

2 位置について (第27表)

i 位置の同定作業

発掘調査で検出された遺跡を分布と古代の郡界の位置からA～Fの6グループに分け、各グループごとに検出された溝状遺構の位置を復原条里上で検討し、時代間、グループ間で比較した。なお第27表は検出された溝の内、その方向が復原条里の方向に対して±5度以内のもの276(坪内小区画溝は含んでいない)の坪内の位置関係を坪界、中線、半折、長地、半長地を目盛りにした、いわば「坪定規」上の位置を示したものである。中線は坪の中心を通るラインに、半折は坪を5分割したラインに、長地は坪を10分割したラインに、半長地は坪を22分割したラインに重なる溝である。目盛り上では半長地の19分の9が中線、半折、長地に、また長地の9分の5が中線、半折に重複するが、中線、半折、長地、半長地の順で同定した。なお一坪には110m四方の規格を設定している。

1) 中線・半折・長地・半長地について

中線はA, E, Fグループにだけ認められる。

Aグループでは、古代の条界方向の中線1本と条界方向の半折3本が検出されているが、これは坪内区画としては両立しない。但し坪が異なる上に、半折が検出された坪7条10里16坪, 7条10里24・25坪, 8条10里2坪では中線は検出されていない。従って、坪によっては中線に溝が設けられない、坪内区画の方向が坪によっては90度振れる、ということであれば、Aグループ古代での坪内区画に不適当なところはない。中線と半折がセットで検出されていない場合、半折は長地区画に、あるいは半長地区分に該当するものである可能性もある。しかし隣接する溝群で長地区画の関係にあるものはなく、半折区画の関係にあるものが一方所(8条10里1・2坪)で見つかっていること、条界方向のSD03は8条10里2坪を半折区画に従って3分の2の区間北流し、クランク状の屈折を経た後は半長地区分に従って北隣の11坪に延長されていること、このような状況から、現状では半折区分に従う溝のいくつかは、長地、半折のような坪内土地地区画には知られていない、幅5.5mの区分(半長地)に従った溝である可能性がより高いのである。それはまた同グループの7条10里16坪の条里方向に従った、縦横に交わる小区画溝の間隔が半長地になっていることから推定されるのである。

Eグループでは中世の条界方向の中線2本と条界方向の半折2本が検出されているが、これも坪内区画としては両立しない。中線は香川郡9条12里15坪の1本と同郡11条12里23坪の1本である。半折は同郡11条12里23坪の1本と同郡18条12里18坪の1本である。同じ坪で方向を同じにする中線と半折区画が共存する。また精度を落とすと(坪界より20m北の東西溝を半折区画に従ったものとすると)、中線と組になる半折1本を想定することもできる。中世になって半折区画が崩れたことが想定されるのである。

Fグループでは近世の条界方向の中線1本と条界方向の半折1本が検出されている。これも坪内区画としては両立しない。中線は香川郡10条18里8坪の1本、半折は同郡10条17里30坪の1本である。近隣に位置するが坪を異にしている。土地地区画の方向が坪間で異なっていたとすれば、不適当ではない。

2) 郡界・条界・坪界について

山田郡一香川郡の郡界に重なる古代の溝が、Cグループで検出されている。山田郡9条12里12坪の西界にあたる。

香川郡14里の1-2条界に重なる溝が、Bグループで検出されている。

香川郡1条の13-14里界に重なる溝が、Bグループで検出されている。

ii 全般的傾向

復原条里の方向との差が±5度以内の276の溝の内(坪内小区画溝は含んでいない)、郡界が0.4%、坪界(条界1, 里界1を含む)が8.3%、中線が3.3%、半折が10.5%、長地が7.2%、半長地が22.1%、地割、坪内区画に重ならないものが48.2%を占める。

〔注目される事項〕

①長地区画に従う溝の低率

坪内区画の内、本来多数を占めるであろうと予測される長地の割合の低いことがまず注目される。しかも古代では僅か2本で長地総数の10%である。中世で12本、近世・近現代で6本となっている。坪内区画との同定作業では中線、半折、長地、半長地の順で決定したことから、中線・半折に長地溝の幾つかは吸収された可能性はあるが、一方半長地溝の幾つかは長地溝に吸収された可能性があるこ

と、半長地は他の区画溝と重なるにもかかわらず高率であること、長地区画の関係にある溝群はFグループ10条18里2坪の中世の一例だけであることから、古代の長地区画の少なさは本来それがなかったことを示すものかもしれない。少なくとも検出された溝がすべて水利に関与したことを想定すると、長地区画は水利とははなはだ関連性の希薄なシステムとなる。

②半長地区分溝の高率

半長地の高率も注目される。坪内区画の未検出のBグループ、半折区画の明瞭なEグループを除くと、その傾向は各時代、各グループに通有であるが、特に古代において顕著である。複雑な地形、分散する耕地群、小地域単位の水利を想定した場合、耕地経営の水利に関しては、この半長地区分の溝は適恰的である。先に見たAグループ8条10里2坪の古代の溝SDO3は半折区画の溝と半長地区分の溝がクランク状の屈折部で結合したものであった。同様の溝の構成は同グループの7条10里24・25坪の古代溝群SD8・45・46でも認められる。半長地区分が半折区画のサブシステムであったことも想定する必要がある。

③地割、坪内区画に重ならず、しかも条里方向に従う溝が半数に上ることも注目される。半長地溝の多さに関連する事象であろう。

iii 時代・地域の傾向

溝数が極端に少なく、統計上その数値に意味が求めにくい地域を除くと、比較対象はA、Fの2グループ間の比較となる。

Aグループでは条界方向において古代、中世、近世・近現代の順で復原条里地割、坪内区画との重なる割合が低くなる。古代で61.5%である。里界方向でも同じであるが、中世と近世・近現代の割合が近づく。条界方向と里界方向で復原条里地割、坪内区画との重なる溝数はほぼ同数であるが、古代では、条界方向が里界方向の2倍以上となっている。

Fグループでは条界方向において検出溝の復原条里地割、坪内区画との重なる割合は、中世と近世・近現代が50%、古代が37.5%と、古代が低くなっている。里界方向では近世・近現代、古代、中世の順に下がる。条界方向と里界方向の間で復原条里地割、坪内区画との重なる溝数を比較すると、里界方向が条界方向の約60%になっている。近世・近現代が3分の2に、中世が半分以下となっているのが主因である。古代ではほぼ同数である。重なり率で比較すると古代、近世・近現代では両方向間に差が無く、中世で里界方向が40%低減しているのである。中世で大きな変革が認められる。なお溝総数は中世が74、近世・近現代35、古代30である(第26表)。

以上、復原条里における検出溝の位置を2グループで比較した。復原条里が高松平野の地割の基本であり、古代以来のものであることが確認される。ところが、各時代でも、グループ内での変遷でもグループ間に差が顕著である。Aグループでは中世の変化を近世・近現代が継承している。Fグループでは中世で大きな変化があり、近世・近現代にも変化するが、近世・近現代の変化の方向性はむしろ古代への接近を示すものとなっている。この高松平野の条里地割の展開は、先にみた復原条里の方向と検出溝の関係から想定された展開に地域差を認める点で同じものであり、さらにその内実を示すものである。なお、Fグループの中世の大きな変化は、その西方に位置する勝賀山城や佐料の城館を築いた西香氏の支配による再開発を想定させるものであるかもしれない。

グループ	地域	時期	条里地割方向との関係						
			従 北線 東西線		準 南北線 東西線		非 南北線 東西線		
A	空港跡地 一角 宮西・一角	古代	19 (7)	13 (3)	3	0	0	1 (4)	2
		中世	39 (6)	17 (2)	14 (2)	2 (2)	3	1	2
		近世 近現代	54	21	16	5	2	7	3
B	多肥松林 松林 日暮・松林 凹原	古代	1	1	0	0	0	0	0
		中世	6	2	4	0	0	0	0
		近世 近現代	3	0	3	0	0	0	0
C	さこ・長池II さこ・長池 さこ・松ノ木 林・坊城 弘福寺北地区	古代	14 (5)	8 (3)	1 (2)	2	3	0	0
		中世	4	0	0	3	1	0	0
		近世 近現代	3	3	0	0	0	0	0
D	松縄 キモンドー 蛙股 天満宮西 井出東I	古代	23	9	12	0	1	0	1
		中世	2	1	1	0	0	0	0
		近世 近現代	2	0	2	0	0	0	0
D	上天神 西ハゼ土居	古代	3	2	1	0	0	0	0
		中世	3	0	2	0	0	1	0
		近世 近現代	7	2	1	3	1	0	0
-	西尾	古代	6	0	2	1	3	0	0
		中世	0	0	0	0	0	0	0
		近世 近現代	0	0	0	0	0	0	0
E	中間西井坪 正箱薬王寺 瓦塚	古代	6	1	5	0	0	0	0
		中世	17	6	4	3	2	1	1
		近世 近現代	7	2	2	0	1	2	0
F	鬼無藤井 西打 香西南西打 筑城城跡	古代	25 (5)	8 (4)	11 (1)	0	1	5	0
		中世	74	40	29	2	0	1	2
		近世 近現代	35	18	12	1	0	4	0

※ 南北線は条界方向 東西線は里界方向を示す

※ 従は±5度以内 準は±10度以内 非は±10度より大の振れを示す

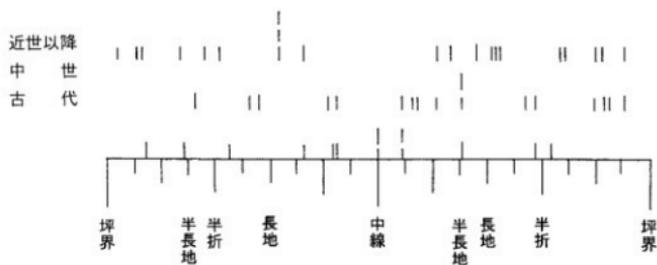
()の数字は外数で、中線、半折、長地、半長地に含まない坪内小区画溝数を示す

第26表 発掘調査検出溝の方向と復元条里の関係

地域 (地割り方向)	時期 該当溝数	坪界	中線	区画			ケル-フ°
				半折	長地	半長地	
空港跡地 一角 宮西・一角 (条界方向)	古代 13	0	1	3	0	4	A
	中世 17	0	0	3	1	4	
	近世 近現代 21	0	0	2	2	4	
空港跡地 一角 宮西・一角 (里界方向)	古代 3	0	0	3	0	1	A
	中世 14	1	0	1	3	4	
	近世 近現代 16	0	3	3	1	3	
多肥松林 松林 日暮・松林 凹原 (条界方向)	古代 1	1	0	0	0	0	B
	中世 2	1	0	0	0	0	
	近世 近現代 0	0	0	0	0	0	
多肥松林 松林 日暮・松林 凹原 (里界方向)	古代 0	0	0	0	0	0	B
	中世 4	2	0	0	0	0	
	近世 近現代 3	2	0	0	0	0	
さこ・長池II さこ長池 さこ・松ノ木 林坊城 弘福寺北地区 (条界方向)	古代 8	1	0	1	1	4	C
	中世 0	0	0	0	0	0	
	近世 近現代 3	1	0	0	0	1	
さこ・長池II さこ・長池 さこ松ノ木 林・坊城 小山西谷 弘福寺北地区 (里界方向)	古代 1	0	0	0	0	0	C
	中世 0	0	0	0	0	0	
	近世 近現代 0	0	0	0	0	0	
松縄 キモンド一 蛙股 天満宮西 井出東I (条界方向)	古代 9	0	0	1	0	4	D
	中世 1	1	0	0	0	0	
	近世 近現代 0	0	0	0	0	0	
松縄 キモンド一 蛙股 天満宮西 井出東I (里界方向)	古代 12	0	0	3	0	2	D
	中世 1	1	0	0	0	0	
	近世 近現代 2	0	0	0	0	1	

地域 (地割り方向)	時期 該当溝数	坪界	中線	区画			グループ	
				半折	長地	半長地		
上天神 西ハゼ土居 (条界方向)	古代	2	0	0	1	1	D	
	中世	0	0	0	0	0		
	近世 近現代	2	1	0	0	0	1	
上天神 西ハゼ土居 (里界方向)	古代	1	1	0	0	0	D	
	中世	2	1	0	0	0		
	近世 近現代	1	0	0	0	1	0	
中間西井坪 正箱菜王寺 瓦塚 (条界方向)	古代	1	0	0	0	0	E	
	中世	6	1	2	2	0	0	
	近世 近現代	2	0	0	0	0	1	
中間西井坪 正箱菜王寺 瓦塚 (里界方向)	古代	5	0	2	0	0	1	E
	中世	4	1	0	0	0	0	
	近世 近現代	2	0	0	0	0	0	
鬼無藤井 西打 香西南西打 築城城跡 (条界方向)	古代	8	1	0	0	0	2	F
	中世	40	4	0	2	5	9	
	近世 近現代	18	2	1	1	0	5	
鬼無藤井 西打 香西南西打 築城城跡 (里界方向)	古代	11	0	0	0	0	4	F
	中世	29	0	0	3	3	3	
	近世 近現代	12	1	0	1	2	2	

第 27 表 発掘調査検出溝の種類



【参考】坪内区画定規 (Aグループ 例) 縮尺 1/1,000

第2章 古代中世の高松平野

第1節 高松平野における条里地割の形成

金田章裕

1 高松平野の条里プランとその基準

高松平野の条里プランが第91図のような状況であったことは、すでに明確となっている⁹⁾。その概要を略述すると次の如くである⁹⁾。

讃岐国山田郡の条は東から西へ数詞で数え進み、里は南から北へと数詞で数える。東辺は三木・山田郡界から始まり、西辺は山田・香川郡界であるが、西辺の9条は坊(坪)の区画一列分のみとなっている。里についても1条～8条は東西に同一数の里が並ぶが、9条のみは1条～8条の5里分北側から1里が始まっており、東側の里よりそれぞれ5だけ若い里数となっている。坊(坪)並は、各里の東南隅から始まり西へ数え進む千鳥式である。

山田郡の東西を面する郡界線はいずれも直線であり、後に詳述するように、東側の直線郡界を基準として、方格の南北線が存在し、郡界線と同様に約10度東へ傾いた(N10°～11°E)方位となっている。

南海道はこれと直交する状況で東西方向に直線状にのびており、その位置は、丘陵部における切り通し状の遺構および隣接条里地割の南北幅の延びとして確認することができる⁹⁾。南海道はまた、山田郡1～8条の7・8里、9条の2・3里の里界線にも相当する。

各部東側の直線郡界と直線状の官道である南海道を基準として、条里地割と条里呼称のいずれもが施工・編成されている以上のような状況は、基本的に讃岐国各部に共通する。つまり、条里プランは各部とも同一の原理で編成されたとみられる。

山田郡条里プランの基準となつたと見られる三木・山田郡界は、高松市と三木町の境界の芳尾山(標高102.7 m、旧版地形図中の芳岡山)東肩とその南側の二子山(180.4 m)の東肩を結ぶ直線と合致し、第89図のような直線状の境界線は、現在も高松市と三木町の境界線に踏襲されている。南海道の方は、木田郡三木町の白山(標高203 m)の南麓と高松平野西端に位置する旧香川郡(現高松市)の六ツ目山(標高317 m)の北肩を結ぶ直線となっている。後者は六ツ目山と北側の伽藍山の間の鞍部の峠越地点でもある。

一方、山田郡西端の山田・香川郡境は、高松市日山西側の西コブ山(標高116 m)の西肩ないし、その南の実相寺山(250 m)の山頂を通る直線であり、かつてはこの直線を軸として高松市と木田郡木太村、香川郡



第89図 旧三木、山田郡境
(木田郡十河村、平井町界、昭和3年
測図 1:25000¹⁾高松南部)



第90図 旧山田・香川郡境(木田町木太村・林村・三谷村と高松市・香川郡太田村・多肥村との境界、昭和3年測図1:25000「高松南部」。なお、上図宮西・西下所の中間の池が台地、その西方が榎木神社、東北方が岩田神社)

太田村・多肥村と木田郡林村・三谷村の境界線が存在した(第90図参照)。しかし、北側の目標物に相当するものは平野中には見当たらない。この直線郡界は、ほぼ $N9^{\circ}E$ の方向を示し、前述の三木・山田郡界に比べ1度程度西よりの方位を示していることになる。その結果、山田郡田図に表現された南北二カ所の弘福寺領のうち、北地区が比定される9条7里付近では、山田香川郡界線に接する同里東端の坊区画列はほぼ109m程度の標準的規模となっているが、北側では次第にこれより広くなり、南側では逆に狭くなることになる。従って、山田郡田図南地区が比定される9条4・5里付近、すなわち旧高松空港西端付近では、東西幅が著しく狭くなり、80m前後となる。

2 山田・香川郡境と条里プラン

郡界線と地表で検出される条里プランとの対応を、さらに詳細に検討すると第28表のようになる。

山田郡東端の三木・山田郡境は $N11^{\circ}E$ の方向を示し、山田郡1条～4条の方格の南北線はほぼこれと等しい方位となっている。その西側の5～8条付近付帯では、これよりやや西寄りの $N10^{\circ}E$ 程度の方位となっている。一方山田郡西端の山田・香川郡界はほぼ $N9^{\circ}E$ の方位であり、その西側の香川郡1～5条付近もほぼこれに等しい方位となっている。

第28表 高松平野における条里プランの方位(東傾斜角度)

三木・山田郡境	$N11.0^{\circ}E$
山田郡1・2条境	11.0
2・3	11.5
3・4	11.0
4・5	(不明確)
5・6	10.5
7・8	10.0
8・9	10.0
山田・香川郡境	9.0
香川郡1・2条界	9.0
2・3	(不明確)
4・5	9.5



第91図 高松平野西部の条里プラン (金田,1993)

以上のことを換言すると、山田郡東半の春日川以東ではN11°Eの方が、西半の同川以西ではN10°Eの方が一般的であり、香川郡の御坊川（香東川の旧河道）以東付近では、N9°Eの方が卓越していることになる。この単位で全体に少くも方位が異なっていることになる。ただし、さらに細かくみればそれぞれの単位の内部に数多くの組網を含み、小条里地割区とでも称し得る小単位の集合であるという一般的にみられる状況は、山田郡・香川郡付近においても同様である。

さらに第29表によって、このような条里プランの南北線間の東西距離⁹をみると、次のような状況が判明する。山田郡では東西の1条分の幅が650～683mとなっており、1坊（坪）分に換算すると、108.3～113.8mとなるが、いずれの場合も条の界線に相当する径溝は厳密な直線ではなく、多少の湾曲をしているために場所によってその差が大きい。ところが、各条の7・8里界、すなわち南海道沿いで1～6条の平均値を取ると1条幅が658.5m、1坊（坪）の幅が109.8mとなる。7・8条ではこれより少し平均値が大きくなり、1～8条全体としては1坊（坪）分はほぼ110m程度となる。

第28表で示したように、春日川東岸付近の3・4条付近ではほぼN11°E、西側ではN10°E程度の方位を示しているが、まさしくその中間の4・5条は、11・12里付近では1条分の東西幅が約683mと著しく広がっていることが知られる。つまり、4・5条付近が北へ行くほど若干広がった形状となっていることを示す。

一方香川郡東部では、第29表のように、1条～4条一帯の1条分の幅は約645～670m、1坊分に換算して107.5～117mとなっている。ここでも、個々の湾曲分を除くために1～3条間の15・16里界線上の平均値を求めると、1条分655m、1坊分109.2mと算出される。香川郡東部の方が一般値に近似し、山田郡の平均値より方格の一辺が1m程度小さいことになる。香川郡1条の東西幅は、前述のような山田・香川郡界を1条東辺とした計測であるから、香川郡東部付近の条里プランは全体としてこの郡界線を基準として成立しているときみなし得ることになる。

3 南海道と条里プラン

南海道と条里プランの関係についても検討しておきたい。

すでに述べたように、讃岐国の平野部における南海道は、山頂・山肩・山麓といった明瞭な地形目標を結ぶ直線道として設定されており、また、条里プランの里界線としてその基礎となっていること、やはり直線で設定されている郡界線と直交していることが明らかとなっている。山田郡・香川郡の部分では、高松平野東南部の三木町白山の南麓と、同平野西南部六ツ目山の北肩を結ぶ直線が古代南海道の基本ルートであったとみられる。近世の南海道は、平野東部と西部では、ほぼこの位置を踏襲しているが、その中間の春日川と香東川間ではやや南側をたどっている。この部分において、旧官道の遺構と判断される地割列や、台地部分における切り通し状の形状が見られることもすでに述べた。

平成7年度における第2次弘福寺領山田郡田園調査事業の一環として、高松市三谷町の旧官道に相当する部分において発掘調査が実施され、その遺構と考えられる切り通し・堆積部分が検出された。

第29表 山田郡および香川郡東部の1条分の東西幅

山田郡	1・2条	7・8里界	665m
	//	8・9里界	658m
	3条	7・8里界	650m
	//	9・10里界	665m
	4・5条	11・12里界	683m
	4～6条	7・8里界	657m
	5・6条	11・12里界	657m
	7条	8里中央部	665m
	//	11・12里界	655m
	8条	10里中央部	665m
	//	11・12里界	665m
香川郡	1条	13里中央部	665m
	//	15・16里界	655m
	//	17・18里界	655m
	2条	15・16里界	665m
	//	17・18里界	650m
	3条	15・16里界	645m
		16・17里界	660m
	4条	15里中央部	650m
	1～3条	15・16里界平均	655m

ここではまず、山田郡・香川郡の部分における南海道についてのデータを整理し、若干の考察を加えたい。

(1) 南海道と糸里プラン

南海道のルートは第 92 図のように、山田郡の春日川以東と、香川郡の香東川以西では、古代の位置がほぼそのまま近世以降にも踏襲されているとみられる。第 91 図に概要を示したように、同時に糸里プランの境界線にも相当する。ただし厳密には、山田郡のA地点以東では、吉田川の北側の堤上を通るためにやや北側の位置であり、香川郡のC地点以西は少し北に湾曲している。従って、山田郡ではA-A'が、香川郡ではC-C'が糸里地割の方向とも完全に合致する直線部分であることになる。

そこで、A-A'の方向を西に延長すると山田・香川郡境ではB地点に達する。一方C-C'を東へ延長してもほぼB地点付近に達するが、正確にはA-A'延長地点より若干南よりに向うことになる。その理由はA-A'が正確な東西方向に比べ約11度西上がり(N79°W)であり、C-C'が同様に約10度西上がり(N80°W)であることにかかわる。B-C'間つまり香川郡東部の南海道付近では糸里地割の方格線はやや不整形であるが、D地点にある田村神社東側一帯の糸里地割の方格線は、2,500分の1図⁹上におけるC-C'の延長にほぼ合致するが、A-A'の延長線とは大きくずれている。つまり、香川郡東部の古代南海道の位置は、糸里地割の方格線との合致を前提として考える限り、A-A'の延長線ではなく、C-C'の延長線上に推定すべきことになる。

推定古代南海道のこのような方位は、推論の基礎に糸里地割と合致している部分を使用していることから当然のことではあるが、糸里地割の方位とも同一傾向にある。山田郡A-A'部分では糸里地割の南北線が前述のように約11度東へ傾いており(N11°E)、香川郡C-C'部分では10度傾いている(N10°E)から、南海道の直線はこれらと完全に直交していることが知られる。糸里地割の方位は、南海道A'-B間に相当する山田郡西部で約10度、C'-B間に相当する香川郡東部で9~9.5度程度東に傾いているから、A'-C'間の南海道は、厳密な直線ではないことになる。しかし、すでに述べたように、少なくともD地点付近では、A-A'の延長上ではなく、C-C'の延長上の直線であった可能性が高いことになろう。

さて、第92図および第91図のように推定し得る古代官道沿いには、かなり明瞭な形で糸里地割の里の区画を復原することのできる部分がある。その部分についてのみ、推定南海道の南北に接する里の南北距離を計測した結果が第30表である。各里の南北幅は650m~688mとかなりのばらつきを示していることが知られる。この数値は、2,500分の1図上において、同表に示した各条における現在

第30表 南海道沿いの糸里地割別のサイズと推定道幅

	北側里の南北幅	南側里の南北幅	算出される道幅
山田郡一条東辺	650m	688m	21m
二条東辺	655	675	13
三条東辺	663	(665)	11
四条東辺	668	668	19
香川郡五条東辺	670	663	23
八条東辺	668	663	21
九条東辺	675	655	13
十条東辺	670	660	20

(注) 里の南北幅は、2,500分の1図上の計測による。算出される道幅は、南海道2里分からのサイズの平均値を除いた数値。